

# キャンパスマスタープラン 2022



令和5年 11 月改訂

長岡技術科学大学

## 目次

1. キャンパスマスタープランについて	1
(1) キャンパスマスタープランの必要性及び策定経緯	1
(2) 改定の背景	1
2. キャンパスの現況	2
(1) キャンパスの概要	2
(2) 建物老朽化の状況	2
(3) ライフラインの状況	3
3. 施設整備の方針	5
(1) 本学の理念・目標	5
(2) 中期目標	5
(3) 施設整備の基本方針	6
(4) 施設整備の手法	6
4. キャンパス及び施設の概要	7
(1) キャンパス環境	7
(2) 敷地計画概要	7
5. 整備計画	11
(1) 老朽対応	11
(2) 機能強化対策	11
(3) 防災対応	12
(4) 防犯対策	12
(5) ダイバーシティ対策	13
(6) ライフライン	13
(7) カーボンニュートラル対策	14
(8) 構内交通対策	14
(9) 設備マスタープランとの連携	14
参考資料	15
第4期中期目標	16
長岡技術科学大学将来ビジョン	19
第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（概要）	20
構内各種配置図	21～38

## 1. キャンパスマスタープランについて

### (1) キャンパスマスタープランの必要性及び策定経緯

本学の基本理念や教育・研究における目標の具現化のため、大学キャンパスにふさわしい施設環境の整備が必要である。そのため、質的確保及び安全性確保が求められる。

本学の施設は、昭和51年の開学当初に整備されたものが多く、建設後40年以上が経過している。耐震補強に併せて改修工事を実施した施設がある一方で、老朽が進行している施設も存在することから、適切な維持による長寿命化を図りつつ、計画的な老朽機能改善整備の推進が重要となる。

キャンパスマスタープランは将来的なキャンパス空間の理想像を描き、本学が今後施設整備を進めるための基本的な方向を示す目的で策定する。将来的な大学の姿を見据え、第4期中期目標・中期計画の期間までを想定し、計画するものである。

なお、このマスタープランは、本学の主要キャンパスである「上富岡町団地」について策定するものである。

### (2) 改定の背景

前回策定された「長岡技術科学大学キャンパスマスタープラン（平成29年版）」から5年が経過した。各国立大学法人においては、令和4年度から「第4期中期目標・中期計画」期間となる。また、文部科学省からは、令和3年度に「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」が策定され、国が求める整備方針にも変化が生じている。

このような社会情勢の変化に合わせ施設に期待される役割も変化していることから、これらに適切に対応していくため、キャンパスマスタープランの改訂を行うものである。

なお、キャンパスマスタープランは、国・本学の方針、予算状況、教育研究の変化、社会情勢の変化に合わせて、随時見直しを行うものとする。その他、アクションプランとして、個別の整備計画について、別途策定する。

各計画等	2016	2022	2028	2034
中期目標・中期計画	第3期中期目標・中期計画	第4期中期目標・中期計画	第5期中期目標・中期計画	
キャンパスマスタープラン	キャンパスマスタープラン平成29年版	キャンパスマスタープラン2022	キャンパスマスタープラン2028	
アクションプラン (個別計画の見直し)		適宜見直し		
国立大学法人等 施設整備5か年計画	第4次施設整備5か年計画	第5次施設整備5か年計画	第6次施設整備5か年計画	第7次施設整備5か年計画

## 2. キャンパスの現況

### (1) キャンパスの概要

本学キャンパスの面積等は以下のとおり（2021年5月1日現在）。

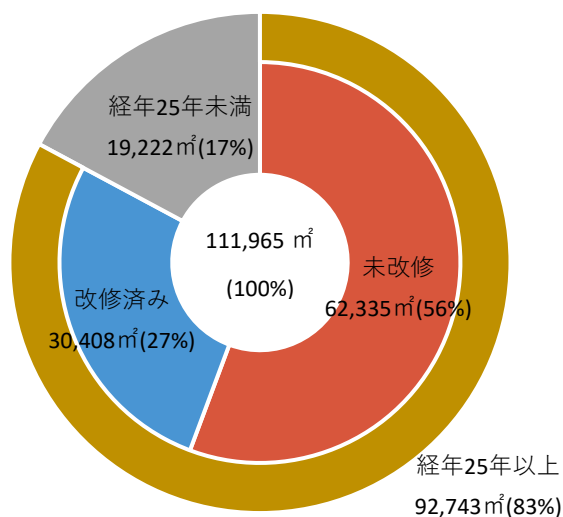
キャンパス名	所在地	主要用途	敷地面積	建物延べ面積
上富岡町	長岡市上富岡町 1603-1	教育研究施設	377,484 m <sup>2</sup>	111,965 m <sup>2</sup>

### (2) 建物老朽化の状況

保有建物面積 111,965 m<sup>2</sup>のうち、約 56%の 62,335 m<sup>2</sup>が経年25年以上で未改修の老朽施設である。本学の特徴として開学当初に整備されたものが多く、開学当初から5年間のうちに建設された建物は、約 57%の 69,136 m<sup>2</sup>に上る。

なお、耐震化率は 100%である。

建物老朽化の状況（割合）



### (3) ライフラインの状況

#### ① 電力設備

受変電設備，高圧電力線は令和元～2年年度にかけて，高圧受変電設備の更新工事を行ったことで全て経年30年未満であり，高圧受変電設備の更新が進んでいる。

低圧電力線は51%が経年30年以上であり，建物の老朽改修に合わせて更新を進めている。

自家発電設備は，エネルギーセンター，地域防災研究実践センター，井水ポンプ室に電力供給する1Φ85kVA出力1基・3Φ200kVA出力1基，給水ポンプ室に電力供給する3Φ100kVA出力1基を保有し有事の電力供給・給水に備えている。

電力監視，設備監視のためエネルギーセンターに中央監視設備を備えている。37%が経年30年以上であるため建物の老朽改修に合わせて随時更新を進めている。

#### ② 太陽光発電装置

太陽光発電装置は，出力35kWのシステムが図書館屋上に設置されている（経年13年）

#### ③ 空調設備

中央式空調用ボイラは，還流ボイラ5基（経年13年）が設置されており屋外冷暖房管は89%が経年30年以上であるが，空調設備の更新にあたってはガスヒートポンプ式による個別化を進めており，近いうちに中央式空調用ボイラは廃止する。

#### ④ 給水設備

給水設備は平成25年度に屋外配管の67%を改修しており85%が経年30年未満である。経年30年以上の屋外配管は陸上競技場の給水配管であり劣化が見られないため更新を予定していない。

受水槽は，ステンレス製（経年18～7年）5基・FRP製（経年30～4年）4基が設置されている。

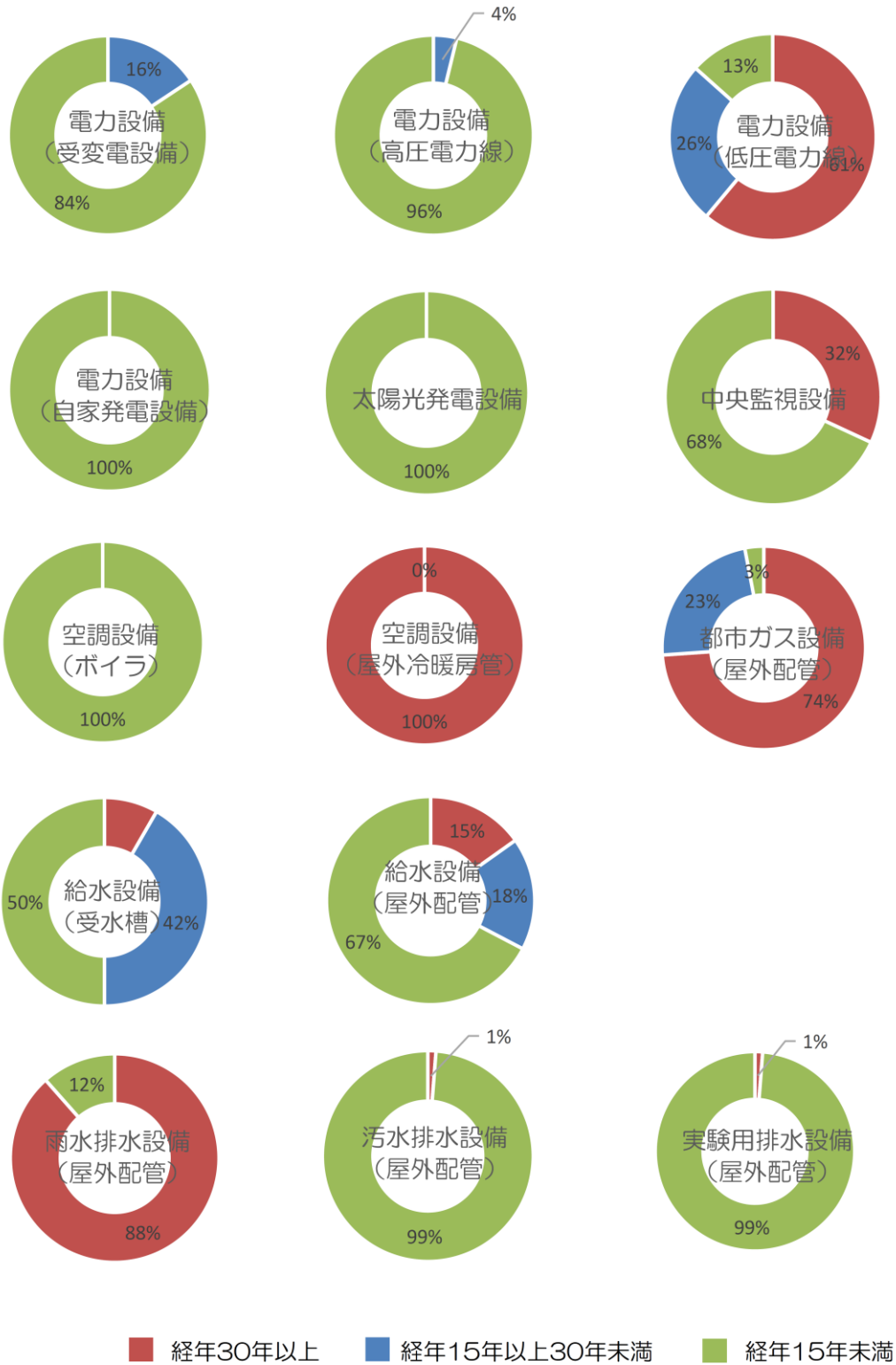
#### ⑤ 排水設備

雨水排水は100%が経年30年以上であり，汚水排水，実験排水は99%が経年15年未満であり汚水排水・実験排水は更生工事を行っている。雨水は今後更生工事を実施する予定である。

#### ⑥ ガス設備

ガス管はPLP管で74%が経年30年以上であり，耐震性に懸念があるため今後更新する計画である。

各ライフラインの老朽割合（2023年5月1日現在）



### 3. 施設整備の方針

#### (1) 本学の理念・目標

本学は、昭和51年に大学院に重点を置いた工学系の新構想大学として創設され、「現実の技術対象を科学的視点で捉え直し、それによって更なる技術体系を発展させる“技学”の創出とそれを担える人材の育成」を基本理念とし、主として高等専門学校卒業生を3年次に受け入れ、学士～修士課程の一貫教育体制の下で教育・研究に取り組んでいる。教育面では、社会と共に歩み次世代の産業をリードする豊かな実践的・創造的能力を備え、人間性や国際性に富んだ指導的技術の育成を目標としている。また、研究面では、社会構造の変化に対応した高度な実践的研究を展開し、科学技術による課題解決や新たな価値の創造を目標としている。更に産学共同による教育研究の推進など、広く社会と連携協力を図ることも開学時からの一貫した目的である。

本学における建学の精神は、活力（Vitality）・独創力（Originality）を養うと共に、世のための奉仕（Services）を重んじるというもので、その頭文字による「VOS」が本学のモットーである。



#### (2) 中期目標および将来ビジョン

本学における第4期中期目標は、以下「（前文）法人の基本的な目標」に示している（前文の全体は、参考資料に掲載）。

=====

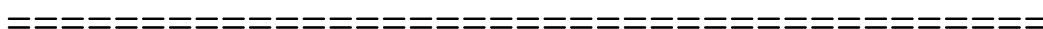
第4期中期目標期間（令和4年度からの6年間）では、高専一技科大路線の核となる教育研究システムを新たに構築し、SDGsに資するイノベーション創出を担う実践的・創造的能力と持続可能な社会の実現に貢献する志を備えた指導的技術者を養成する。併せて、SDGs達成に向けた先進的研究・技術開発を推進し、その社会実装を通じて国内外の産業集積地域の持続的発展や地域の魅力創りに繋げる。また、大学経営の観点から、学長のリーダーシップのもとで組織・業務運営の改善・効率化及び多様で安定的な財務基盤の確立に努める。さらに業務運営の合理化・効率化を図るための情報技術の活用を含むデジタルキャンパス化を進める。

=====

目標を明確化し達成するため、以下の7つの将来ビジョンを掲げています。

- 教育 情報技術の実践力、横断的異分野融合的な知を備えた人材の育成

■研究	ものづくり+情報技術分野を中心とした先進的研究・技術開発及び社会実装の推進と研究者の多様性が活きる研究環境の整備
■社会連携	ものづくり地方都市の持続的発展に向けた社会貢献
■グローバル化	海外大学・産業界との強固なネットワークに立脚したグローバル化の展開
■組織業務運営	学長のリーダーシップによる組織・業務運営の強化
■財務	財源の多様化と安定的な財務基盤の確立
■デジタル キャンパス化	教育研究と組織・業務運営における情報技術の活用



### (3) 施設整備の基本方針

本学の理念・目標、第4期中期目標を念頭に置くと共に国の施策である「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」による整備方針に合わせてイノベーションコモンズ（共創拠点）への転換を図ることを目標とし、大学の機能強化に対応した施設整備やダイバーシティに配慮した施設整備を推進し、良好なキャンパス環境を形成する。

- ・ 国立大学等に求められる役割を反映する。
- ・ 社会情勢及び施設需要の変化を反映する。
- ・ カーボンニュートラルに向け省エネやZEB化に取り組む。
- ・ 教育・研究の高度化及び活性化を図る
- ・ 安全・安心に配慮する。
- ・ 全学的視点に立った施設マネジメントに基づく弾力的・効率的な有効活用を図る。
- ・ バリアフリー等を含めダイバーシティに配慮する。
- ・ 既存施設の老朽改善の着実な実施を目指す。

### (4) 施設整備の手法

従来の施設整備においては、施設整備費補助金等による整備が主であった。一方で国の厳しい財政状況の中で従来の新築・改修の整備は困難であることが予想される。このため、施設整備費補助金以外の「多様な財源」による整備を積極的に検討する必要がある。

多様な財源の例として、「スペースチャージによる資金確保」、「省エネルギー改修により削減した光熱費の活用」、「他省庁の補助金」、「自治体からの補助金」、「企業からの寄付金」、「土地の貸付又は売却」、「ネーミングライツ」、「クラウドファンディング」、「PPP/PFI」等が考えられる。



## 4. キャンパス及び施設の概要

### (1) キャンパス環境

#### ① 立地条件

主要団地である上富岡町団地は、JR 長岡駅から西南約 7.6 kmの丘陵地に位置し、国道 8 号線及び関越自動車道長岡インターチェンジから約 2 kmのところの位置している。

敷地は、なだらかな丘陵地であったものを南北約 1.2 km・東西約 0.5 kmの範囲を切土造成した部分と、数か所の林地及び公道・河川で分断された運動施設敷地で構成されている。敷地の周囲は農地や雑木林が広がっているほか、1 kmほど離れた位置には私立大学 1 校が存在する。

キャンパスの主要アプローチは、敷地北側から弧状の緩やかな傾斜をなし、キャンパスモール（歩行者専用通路）へとつながる。キャンパス内道路は、主要アプローチから東西へ分かれた循環道路へとつながる。

#### ② 地方性と交通問題

市街地中心部から離れ、公共交通機関は路線バスのみで利便性に欠ける。通勤・通学の手段は自家用車の利用が多いが、駐車登録台数が駐車可能台数を超過しているため、現状としては構内循環道路の片側を駐車可として対応している。

#### ③ 敷地条件

上富岡町団地の敷地面積は 377,484 m<sup>2</sup>を有している。敷地内の高低差は 21.7m であり、エリア毎においてはほぼ平坦であるが、敷地全体での高低差は大きい。切土部分の地盤は砂礫層であり、建物の支持地盤としては十分な強度を有していることから、中層程度の建物は直接基礎の採用が可能である。

敷地内の建物延べ面積は 111,965 m<sup>2</sup>で、建ぺい率 11.6%（法令上限 60%）、容積率 29.7%（法令上限 200%）である。なお、都市計画法で規定されている用途地域は「第 1 種中高層住居専用地域」である。

### (2) 敷地計画概要

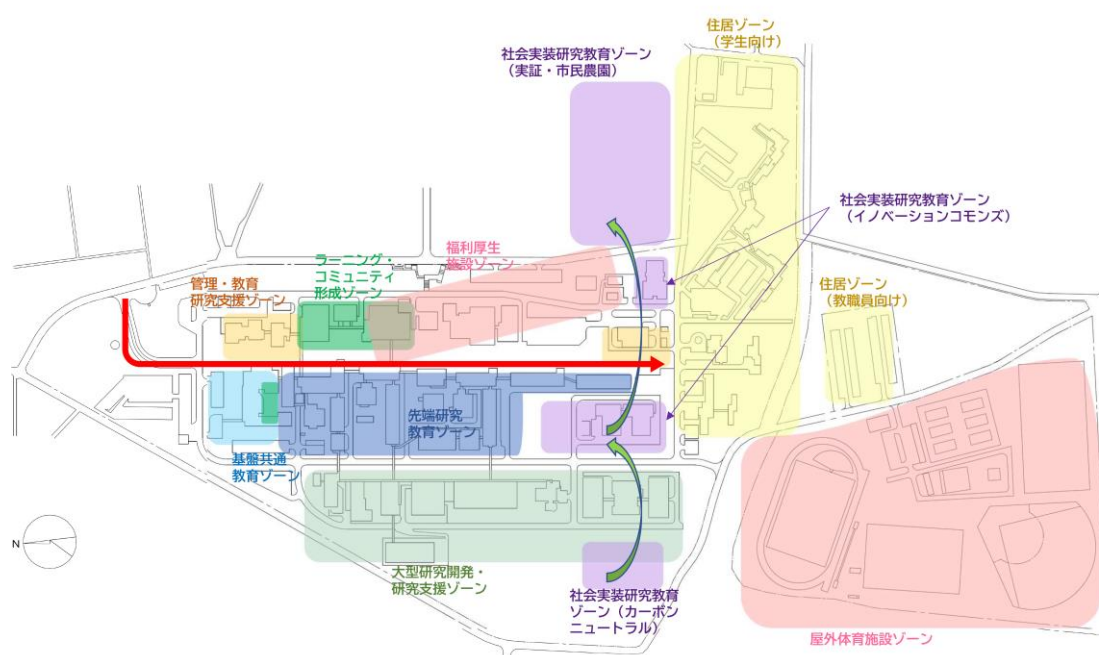
敷地計画のうち、利用計画・構内動線・建物配置・エネルギー供給については、開学時の形態を大きく変えることができないため、従来の計画を継続することを基本とする。ただし、教育研究ニーズの変化に対して弾力的な利用計画の見直しを必要に応じて行うこととし、敷地や建物のポテンシャルを最大限活かせるように有効利用を図る。

#### ① 利用計画

敷地は、管理・サービスゾーン、ラーニングコミュニティゾーン、福利厚生ゾーン、基盤共通教育ゾーン、先端研究教育ゾーン、大型研究開発・研究支援ゾーン、住居ゾーン、屋外体育施設ゾーンの他、キャンパス全体をイノベーション commons（共創拠点）に形成していく上で中核となる施設群を新たに社会実装研究教育ゾーンとしてゾーニ

ングに加え、各ゾーンの特性を生かした配置計画とする。

- a) 将来の教育研究内容の進展・拡充に対応できる適切な用地を確保すると共に、各ゾーンの用途は長期にわたり変更しないことに留意して施設計画を行う。
- b) 管理・サービスゾーン、ラーニングコミュニティゾーン、福利厚生ゾーンは、教育研究やキャンパスライフを支援する施設を中心に構成し、各教育ゾーン又は各研究ゾーンや住居ゾーンからアクセスしやすい配置とする。
- c) 基盤共通教育ゾーン、先端研究教育ゾーンは、本学の中核であることから、キャンパスの中心部に位置しており、分散配置を避け歩行距離圏内に主要施設をまとめる。
- d) 大型研究開発・研究支援ゾーンは、実験研究の特性から、騒音・振動・重量物の搬出入に配慮する。
- e) 屋外体育施設ゾーンは、学生・教職員が手軽に利用できるものとし、地域に開かれた施設とすると共に管理が容易な配置とする。
- f) 住居ゾーンは、職住分離を原則とするため、キャンパス内においても教育研究ゾーンとは分離すると共に良好な生活環境を保持できるよう考慮する。
- g) 社会実装研究教育ゾーンは、他の教育ゾーン又は研究ゾーンとのアクセスしやすさを確保しつつ、セキュリティ面についても配慮する。

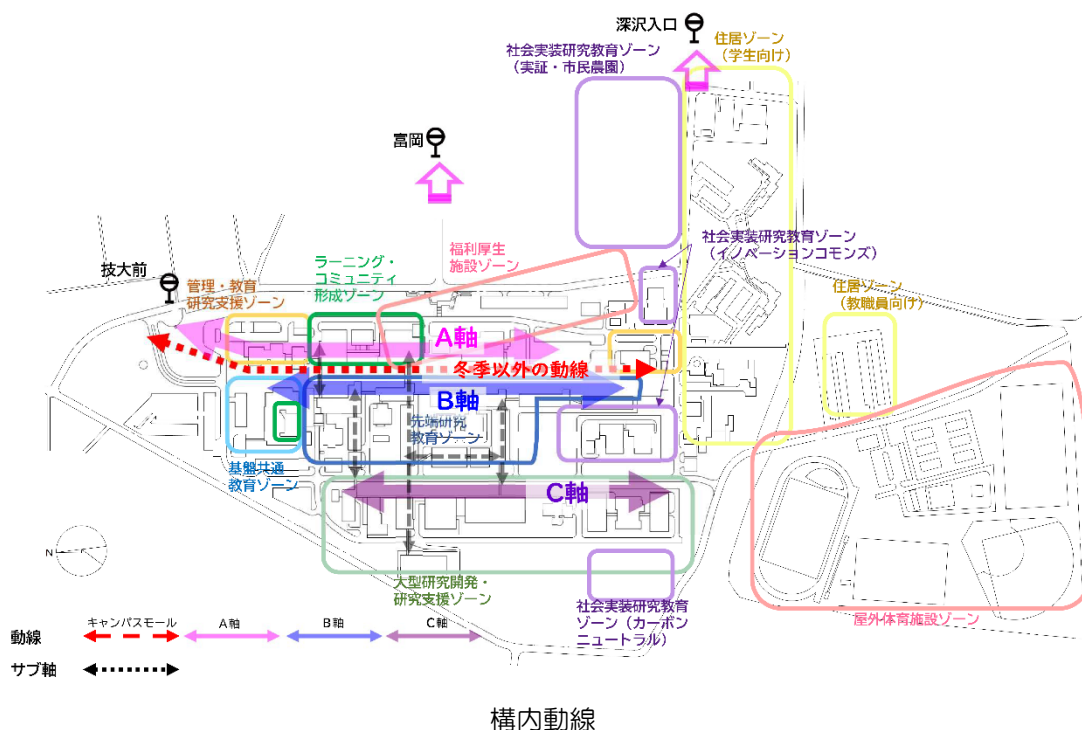


敷地利用計画

## ② 構内動線

- a) キャンパスの主進入路は、関越自動車道長岡インターチェンジ・国道8号線・長岡東西道路からのアクセスが容易なキャンパス北側とする。

- b) キャンパスを南北に貫くキャンパスモールの屋外導線を中心として各ゾーンを並行に連結するA,B,C軸の屋内動線がある。管理・教育研究支援,ラーニング・コミュニティ形成,福利厚生施設の各ゾーンを連結するA軸,アカデミックコアとなる基盤共通教育,先端研究教育,社会実装研究教育の各ゾーンを連結するB軸,大型研究開発・研究支援ゾーンを連結するC軸があり、東西のサブ軸が各ゾーンを有機的に連結し、周囲に循環道路や各建物へのサービス道路を配置する。
- c) 中庭の南北方向の動線は、歩行者専用通路でキャンパスモールとして学生・教職員・外来者が集うことが可能な「にぎわい空間」を兼ねる。ここでは、知的交流・地域交流・国際交流を促す場として利用が可能である。



### ③ 屋外環境計画

- a) 駐車場は、主要建物付近に分散して確保しているが、駐車台数不足のため構内循環道路の片側を駐車可として対応している。
- b) 駐輪場は、周回道路沿いの各建物周辺に24カ所配置され、623台収容可能となっている。

### ④ 建物配置・利用計画

- a) 各建物の用途や関連を充分考慮し、機能的で使いやすい配置とするため、類似した建物はできるだけ集約を検討する。
- b) スペース課金制度を積極的に進め、全学的に利用できる共用スペースを確保しつつ、施設の効果的・効率的な利用を更に推進する。
- c) 建物は群としての調和を図るため、秩序ある建物形態・ボリューム・デザイン・色

彩を考慮しつつ、単調な意匠とならないよう配慮する。

d) キャンパスは東傾斜であるため、高低差を考慮する必要がある。

#### ⑤ エネルギー供給・ライフライン計画

a) 電力は安定供給が不可欠であるため、電力会社から高圧受電で供給することを基本とする。ただし、教育研究の進展や変化により電力需要増が見込まれることに対しては、安易に契約電力を増やすのではなく、自然エネルギー等の活用を検討する。

b) 給水については、井水を飲料化したものを供給している。ただし、その給水能力を超えた場合や最低限の配管維持のため一部市水の供給も受けている。

c) ガスについては、ガス供給会社から中圧ガス管にてガスガバナ―室まで導入している。構内主管は低圧ガス管のループ配管で各建物に供給する。

d) 空調設備は、教育研究活動の多様化・省エネルギー面での観点から、個別空調方式を原則とする。なお、ガスヒートポンプ式による整備を進めてきたが、建物の用途を考慮したうえで他エネルギー源の空調設備の採用について検討する。

#### ⑥ IT基盤整備計画

a) 情報ネットワークは、高度化する教育研究活動の支援や合理的な施設の管理運営を行うための重要な基盤である。総合情報センターが管理運営する教育研究・遠隔授業システム及び附属図書館並びに事務に活用しているネットワークシステムを有効に運営する。

b) 学外との接続環境については、SINET 6へ移行が行われ、長岡市内に接続拠点が設置された。これにより、従来のデジタル専用回線が、より高速化・大容量化されている。

#### ⑦ 維持管理

a) 施設を良好な状態に維持するため、各施設のライフサイクルに応じた施設の修繕計画（個別施設計画）を策定し、適切な維持保全を実施する。

b) 開学以来 40 年以上が経過し未改修施設については経年による劣化が目立ち始めていることから、施設の老朽化状況を的確に把握し、適正な維持管理のもと、長寿命化のための計画的改修整備を進める。

c) 修繕・新設・更新においては、維持管理の効率化・合理化のための検討を行う。

d) 関連する「インフラ長寿命化計画」の行動計画及び個別施設計画の理念を基に計画を進め、長寿命化を図る。

#### ⑧ 排水・廃棄物計画

a) 雨水は、雨水排水管を經由して大沢川に直接放流する。

b) 生活排水及び実験排水（2次洗浄水以降の洗浄廃水に限る）は、定期的な水質検査のもとで水質管理を行い、水質基準を順守したうえで公共下水道に放流する。

c) 実験廃液は、適正な管理のもと指定集積場所に保管したうえで、すべて学外の専門業者に処分を委託する。

## 5. 整備計画

### (1) 老朽対応

本学の施設は、開学初期に多くが建設されたため老朽化の進行も集中する。施設の利用形態の変化により部分的な改修を行っている施設はあるが、安心安全の確保は必須である。日常の修繕の他、性能維持改修を含めた長寿命化は確実に実施する必要がある。このため、計画的な老朽改善・予防保全の取組みに合わせて「(2) 機能強化対応」を推進する。

大学の基幹であるライフラインについて、計画的な更新・改修を行う。

### (2) 機能強化対策

産学官や地域社会との連携をより強化するため、イノベーション・commons（共創拠点）となる整備を推進することとし、既存施設の用途転換によるスペースの有効利用や、新增築整備も検討する。

#### ① スペースの転換

施設の有効活用の観点から施設利用状況調査を継続して実施し、利用状況を踏まえたうえで、共用スペース及び競争的スペースへの転換を推進する。

#### ② 改組・定員増

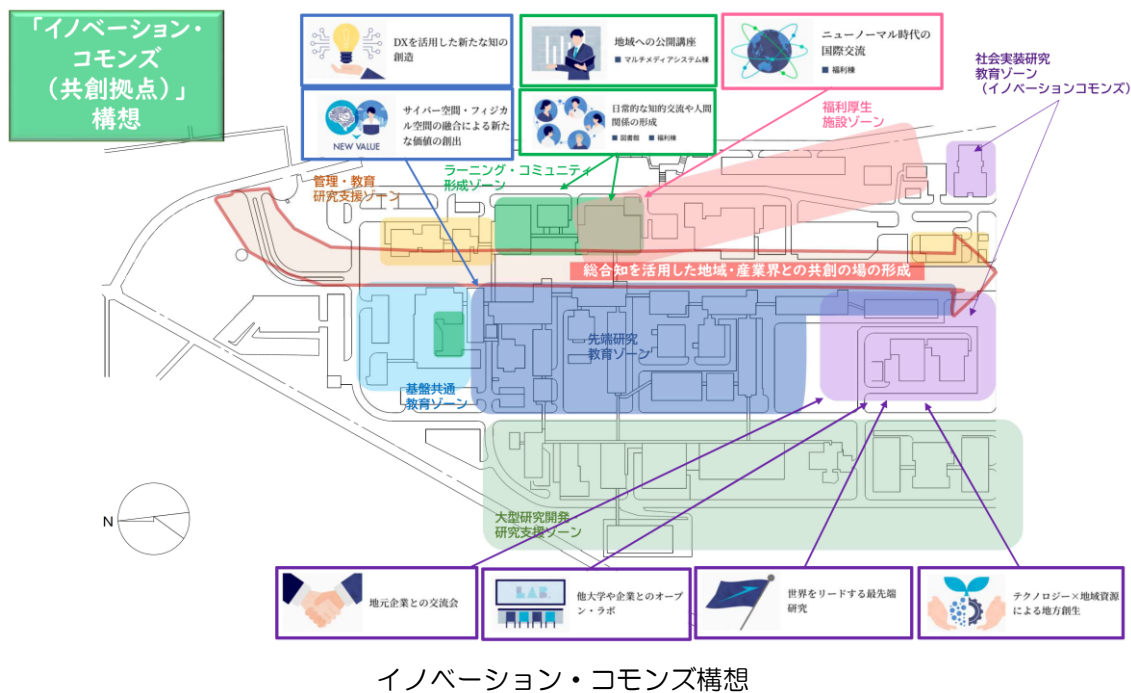
令和4年度から改組に伴う定員増が進行するが、上記①と同様に施設利用状況調査の結果に基づき、施設の有効利用を推進する。

#### ③ 産学官及び地域社会との連携

産業界・地方公共団体との共創による教育研究の機能を更に強化することとし、技術開発センターを中心とした社会実装研究教育の推進等に対応する。併せて、キャンパス全体をイノベーションcommons（共創拠点）に資する計画を検討する。

#### ④ その他

多様な人材が活動できるよう、バリアフリー化を含めダイバーシティに配慮した施設の整備を推進するとともに、修学環境に有用なアクティブラーニングスペース等の整備を進める。



### (3) 防災対応

#### ① 耐震化率

本学施設の耐震化率は100%である。

#### ② 電源の確保

電源確保として非常用発電機 3 基を設置済みであり、防災本部機能・給水ポンプの稼働等、必要最低限の電源は確保している。

#### ③ 水の確保

非常用発電機の起動により給水ポンプが稼働することで、必要最低限の給水は確保できる。

#### ④ 防災倉庫

構内 2 箇所に非常用の食糧・毛布等を格納している。

#### ⑤ 避難所

本学の3施設（体育館・武道場・地域防災実践研究センター）は洪水時における長岡市の指定緊急避難場所に指定されている。また、エネルギーセンター内に避難所用の物品を格納している。

### (4) 防犯対策

#### ① 外灯

夜間の防犯対策として、構内外灯の老朽化・省エネ化・照度確保の観点から、LED化・設置数量の見直しを行っており、年度計画で工事を実施している。

② 監視カメラ

構内の必要箇所に監視カメラを設置済みである。運用上不都合が生じた場合は、移設・追加等の検討を行う。

(5) ダイバーシティ対策

① 円滑な移動に配慮した整備

スロープ・自動ドア・点字ブロック・引戸・エレベータ等、利用形態に合わせて必要な場所に設置する。

② トイレの整備

建物の全面改修又はトイレのリニューアルにあたっては、隣接建物のトイレの整備状況や建物の利用形態を踏まえたうえで、トイレのレイアウト等を検討する。

(6) ライフライン

① 電力設備

受変電設備・高圧電力線の更新は行ったが、低圧電力線は建物老朽改修に合わせ計画的に更新を進める。

② 太陽光発電装置

太陽光発電装置は、設置後 13 年が経過しており、発電パネル・パワーコンディショナー等の主要部品の更新を含めたメンテナンス計画を策定し、必要に応じ処置を講じる。

③ 空調設備

ガスヒートポンプ式による個別空調を基本としている。利用形態によっては、累積運転時間が多いことで更新時期が想定より早まることがある。このため、運転時間の管理を適切に進めると共に、部品交換等メンテナンスを適宜行い、長寿命化を図る。

④ 給水設備

受水槽は、耐用年数・材質を考慮したメンテナンス計画を策定し、必要に応じ処置を講じる。

⑤ 排水設備

実験排水・生活排水のメイン管は、第 3 期期間中に改修済みである。雨水排水のメイン管については、第 4 期中期目標・中期計画期間中の改修完成を目指すことで事業を進めている。

⑥ ガス設備

敷設後 40 年以上が経過していることから、耐久性の高いガス管への更新を検討する。

⑦ 消雪設備

令和 4 年度中に幹線部分の更新が完成する予定である。今後は現況調査を行い、散水

ノズルの不良個所等について更新を含めたメンテナンス等の計画・実施を行う。

## (7) カーボンニュートラル対策

### ① 環境負荷の低減

環境負荷の低減を図るため、外皮性能の向上（開口部の Low-E ガラス・外周部の断熱強化）や照明・空調機器等の高効率化や使用形態に合わせ最適化した機器選定を行う等、省エネルギー技術の積極的な導入を検討する。併せて再生可能エネルギーの利用も検討する。

実験機器類は分散していることで、照明・空調等の消費電力が増えるため、共用化・集約化による省エネを推進する。

ZEB※（Net Zero Energy Building）の実現についても検討を行う。

※ 室内の環境品質を低下させることなく、大幅な省エネルギーを実現する建築物。省エネルギーの達成状況と再生可能エネルギーの導入状況に応じて、ZEB, Nearly ZEB, ZEB Ready, ZEB Oriented の4段階が定義されている。

### ② エネルギーの見える化

電気・ガス・水道については、使用量把握・省エネ啓発のため、「見える化」を行っているが、引き続き情報発信に努める。

## (8) 構内交通対策

### ① 自家用車の乗入れ

駐車場登録台数が駐車可能台数を超過しているため、現状としては構内循環道路の片側を駐車可として対応している。一方で違法駐車等のマナー違反や、利用施設から離れた位置の駐車場では空きが生じている場合もある。学内規則の充実・マナーの徹底など運用面での改善を図る。

## (9) 設備マスタープランとの連携

大学の教育研究活動には、実験機器の整備は不可欠である。このため機器類の整備に合わせた施設の整備計画については、常に連携して取り組むものとする。



## 參考資料

## 【第4期中期目標】

### (前文) 法人の基本的な目標

長岡技術科学大学は、学生定員の約8割が高等専門学校本科からの3年次編入生である。開学以来、学部から大学院修士課程までの一貫した教育により産業界や研究機関で活躍する人材を輩出してきた。1990年代よりグローバル化時代の到来を予測し、欧州はもとより、将来のものづくり拠点となる開発途上国（アジア、中南米及びアフリカ）からの留学生を積極的に受け入れ、これらの国の拠点大学と連携してグローバル技学教育ネットワークを構築してきた。2010年代にはスーパーグローバル大学創成支援事業を通じて、全国の高等専門学校及び海外連携大学とのネットワークを基に、世界を牽引する実践的グローバル技術者教育を展開してきた。これらの実績から、長岡技術科学大学はSDGs(持続可能な開発目標)を先導する大学として、2018年にユネスコから「技学SDGインスティテュート」の認定を受けるとともに、国連からもSDGゴール9のハブ大学として任命された。さらに、その後の活動が評価され、2021年6月からの3年間についても引き続き国連からハブ大学としての活動を期待されるに至っている。

第4期中期目標期間（令和4年度からの6年間）では、高専一技科大路線の核となる教育研究システムを新たに構築し、SDGsに資するイノベーション創出を担う実践的・創造的能力と持続可能な社会の実現に貢献する志を備えた指導的技術者を養成する。併せて、SDGs達成に向けた先進的研究・技術開発を推進し、その社会実装を通じて国内外の産業集積地域の持続的発展や地域の魅力創りに繋げる。また、大学経営の観点から、学長のリーダーシップのもとで組織・業務運営の改善・効率化及び多様で安定的な財務基盤の確立に努める。さらに業務運営の合理化・効率化を図るための情報技術の活用を含むデジタルキャンパス化を進める。そのために、以下の教育研究活動を着実に推進する。

#### (1) 横断的・異分野融合的な知を備えた人材育成

SDGs達成に貢献し、グローバルに活躍できる実践的・創造的能力を備えた技術者の育成を目指す。特に、データサイエンスやAIを有効活用でき、Society5.0の実現を牽引できる横断的・異分野融合的な知を備えた「STEM人材」、さらに俯瞰的視野から社会変革に対応し、マネジメント力を発揮できる「STEAM人材」を育成する。そのため、産学官協働教育に加えて、令和4年度から始まる改組において、工学分野を大括り化し、メジャー・マイナーコースや技術革新フロンティアコースを導入した新たな教育プログラムを構築する。併せて社会人向けリカレント教育及び誰一人取り残さない教育研究環境を整備する。

#### (2) ものづくり+情報技術分野を中心とした先進的研究・技術開発及び社会実装の推進と研究者の多様性が活きる研究環境の整備

Society5.0を支えるものづくり+情報技術の研究分野を中心に、長岡技術科学大学が強みとする材料科学・制御システム・グリーンテクノロジー分野、及び社会ニーズの高い研究開発分野を基盤として、SDGs達成に向けたイノベーション創成に貢献する。そのために組織対組織の共同研究を展開し、地方自治体や金融機関とも連携して研究成果の社会実装を一層推進する。また、産業界等との連携・協働を通じた若手教員のキャリアパスの多様化、さらに、若手、女性、外国人教員等の多様な人材が活躍できる基盤を確立する。

#### (3) ものづくり地方都市の持続的発展に向けた社会貢献

地域企業が抱える多様な課題を解決するために、これまでに構築してきた長岡技術科学大学—全国高等専門学校間のネットワークを積極的に活用して研究シーズの共有化や研究機器の共用化を促進し、研究の高度化を図る。併せて、それらのマッチングにより国内外の地域の特色を活かした産業を高度化させ、地域産業の活性化や新産業創出に繋げる。さらに、未来社会の産業構造変化に対応するための産業界・社会からの要望により一層応えることを目指して、フリーアドレス型社会人リカレント教育の構築・充実、社会人大学院生の増強に努めるとともに、その人材育成を図り、地域の魅力創りに貢献する。

(4) 学長のリーダーシップによる組織・業務運営の強化

学内外の専門的知見を有する者の大学経営への参画、エビデンスベースの大学経営の推進等により、学長のリーダーシップのもとでガバナンス体制を強化するとともに、ステークホルダーへの積極的な情報発信及び双方向の対話を通じて大学経営に対する理解・支持の獲得を目指す。また、大学資産の戦略的な整備・共用を推進し、地域社会・グローバル社会に一層貢献していくための機能強化を図る。

(5) 財源の多様化と安定的な財務基盤の確立

公的資金のほか、寄附金や産業界等との共同研究・受託研究を通じた資金の受入れを積極的に進めるとともに、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多様化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。

(6) 教育研究と組織・業務運営における情報技術の活用

教職員が一体となって情報技術を積極的に活用し、教育研究と組織・業務運営を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な組織・業務運営体制を整備し、デジタルキャンパス化を推進する。



# 長岡技術科学大学将来ビジョン VISION for 2030



## 基本方針（抜粋）

本学は今後2030年を目標として、高等一技術大路線の核となる教育研究システムを新たに構築し、SDGsに資する、イノベーション創出を担う実践的・創造的能力と持続可能な社会の実現に貢献する志を備えた指導的技術者を養成します。併せて、SDGs達成に向けた先進的研究・技術開発を推進し、その社会実装を通じて国内外の産業集積地域の持続的発展や魅力創りに努めます。また、大学経営の観点から、学長のリーダーシップのもとで組織・業務運営の改善・効率化及び多様で安定的な財務基盤の確立に努めます。さらに業務運営の合理化・効率化を図るための情報技術の活用を含むデジタルキャンパス化を進めます。以上の基本方針の達成に向けて、教育・研究・社会連携、グローバル化、大学運営（組織・業務運営、財務）、デジタルキャンパス化に関する右記の活動を着実に推進します。



基本方針の達成に向け

Vision for 2030		7 Action plans		アクションプランの評価を見る
	<b>01 教育</b> Education	情報技術の実践力、情動的・異分野融合的な知を備えた人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>異分野融合領域を系統的に学ぶ新たな教育プログラムの導入</li> <li>情報技術の実践力を備えた高度なSTEM人材の育成</li> <li>産学官学共同教育研究の推進と多方向で活躍できる博士人材の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題解決をリードする若い手の育成と社会人向け教育コンテンツの整備</li> <li>第一人取り残さない教育環境の整備・充実</li> </ul>
	<b>02 研究</b> Research	ものづくり+情報技術分野を中心とした先進的研究・技術開発及び社会実装の推進と研究者の多様性が活かせる研究環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的研究としての技術開発プロジェクトの充実と有効かつ迅速なイノベーションの創出</li> <li>高専と連携した短期的・長期的な地域課題の抽出と、その解決に向けた共同研究の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器のリモート化・共有化と教育資源の共有化・相互利用による研究環境の強化・拡張</li> <li>多様なキャリアパスによる若手研究者支援と研究者の多様性が活かせる研究環境の整備</li> </ul>
	<b>03 社会連携</b> Social Cooperation	ものづくり地方都市の持続的発展に向けた社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>新技術開発の中心となる国内サテライトキャンパス等の開発拠点の創設</li> <li>高専との教育研究連携及び小中高校との教育連携の推進と、社会との共創を推進する教育研究ネットワークの強化</li> <li>高専と連携した短期的・長期的な地域課題の抽出と、その解決に向けた共同研究の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器のリモート化・共有化と教育資源の共有化・相互利用による研究環境の強化・拡張</li> <li>地域課題解決をリードする若い手の育成と社会人向け教育コンテンツの整備</li> </ul>
	<b>04 グローバル化</b> Globalization	海外大学・産業界との強固なネットワークに立脚したグローバル化の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生及び教職員が外国語運用能力を含むコミュニケーション能力の向上</li> <li>グローバルに活躍できる実践的・創造的技術者の育成、留学生サポートの充実、強化による多様な国からの留学生受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外経験プログラム及び技術教育研究モデルの次世代戦略的領域への展開</li> <li>海外の企業向け研究開発や企業との協働教育・研究の推進</li> <li>優れた業績を有する海外大学・研究機関等との新規の国際協定締結の推進</li> </ul>
	<b>05 組織・業務運営</b> The Organization and Administrative Management	学長のリーダーシップによる組織・業務運営の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ステークホルダー協議会」の設置・活用と多様なステークホルダーへの積極的な協働活動</li> <li>長期的な視点に立った総合的な人事方針及び人材育成計画の策定・運用</li> <li>組織・業務の有効活用を戦略的に推進する体制の強化と組織の計画的な改善の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の自己点検・評価、結果の公表と、大学の活動の質の向上・強化</li> <li>教育研究の質向上及び業務運営の改善・効率化のための好循環システムの構築</li> </ul>
	<b>06 財務</b> Treasury	財源の多様化と安定的な財務基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>財源の多様化と安定的な自己財源の確保</li> <li>将来的な財源発展に向けた取組</li> </ul>	
	<b>07 デジタルキャンパス化</b> The Campus Digitalization	教育研究と組織・業務運営における情報技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニューノーマルにおける多様な授業形態への移行の推進と教育研究支援の強化</li> <li>長距離オンライン授業でも学内受講受取可能な環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルキャンパス推進室の設置とその人材育成、大学業務のデジタル化</li> <li>教育研究の質向上及び業務運営の改善・効率化のための好循環システムの構築</li> </ul>

【第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（概要）】

第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3～7年度）

（令和3年3月 文部科学大臣決定）

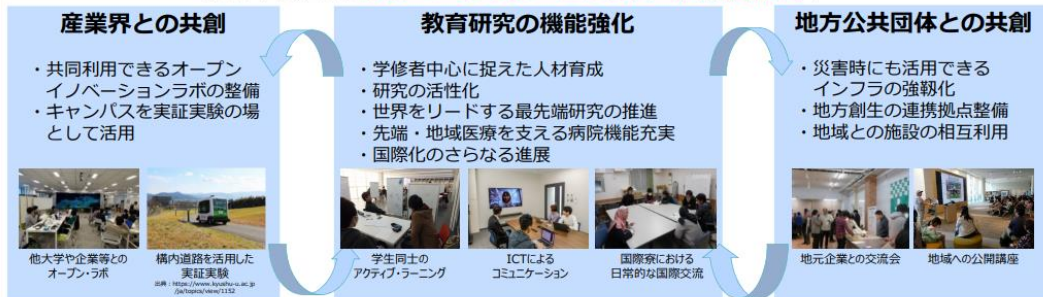
基本的な考え方

▶国立大学等に求められる役割

- 国立大学等の本来の役割である「**教育研究の機能強化**」と「**地域・社会・世界への貢献**」
- 社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「**共創**」の拠点
- 多様なステークホルダーと積極的に関わり合い、新たな活動が新たな投資を呼び込むことで**成長し続ける真の経営体**

▶施設整備の方向性

キャンパス全体を **イノベーション・コモンズ（共創拠点）** へ



＜イノベーション・コモンズ実現に向けた今後の取組＞

- ・ 国立大学等施設は全国的に配置された我が国最大の知のインフラであり、**最大限活用**
- また、**DXの加速化**をはじめ、社会情勢の変化に速やかに対応
- ・ 効率的な施設整備により**老朽改善整備の加速化**とともに**新たなニーズに対応した機能強化**を図る
- ・ **ポストコロナ社会も見据えたオンラインと対面の双方のメリットをいかした効果的なハイブリッド**、**国土強靱化**や**カーボンニュートラル**に向けた取組や、**バリアフリー**なども含め**ダイバーシティに配慮した施設整備**を推進
- ・ あわせて、**施設マネジメントの取組と多様な財源の活用を一層推進**

「イノベーション・コモンズ」のイメージ

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とは

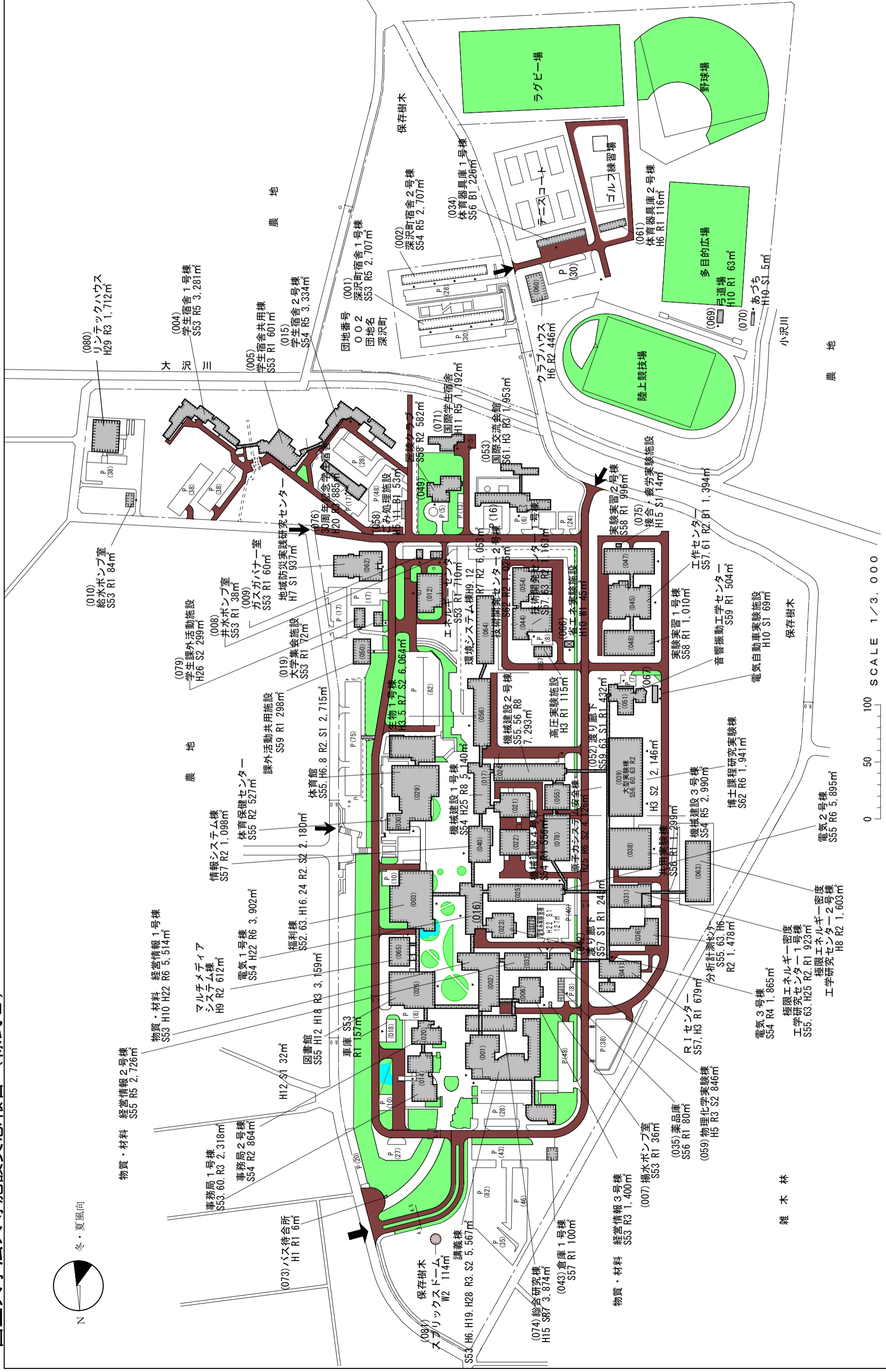
- ・ あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが**共に創造活動を展開**する「共創」の拠点
- ・ 教育研究施設の個別の空間だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含め**キャンパス全体が有機的に連携**した「共創」の拠点
- ・ **対面とオンラインのコミュニケーションが融合**し、**ソフトとハードが一体**となって取り組まれる「共創」の拠点

⇒多様な学生・研究者や異なる研究分野の「共創」、地域・産業界との「共創」の促進等により、**教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や新事業・新産業の創出に貢献**



国立大学法人等施設実態報告 (様式2)

配置図



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学 校 名	作成年度
377,484㎡	43,905㎡	111,933㎡	11.6%	29.7%	2,003人	工学部	001	上富岡町	長岡市上富岡町1603-1	0432	長岡技術科学大学	2023年度
										整理番号	2 - 0432 - 001	

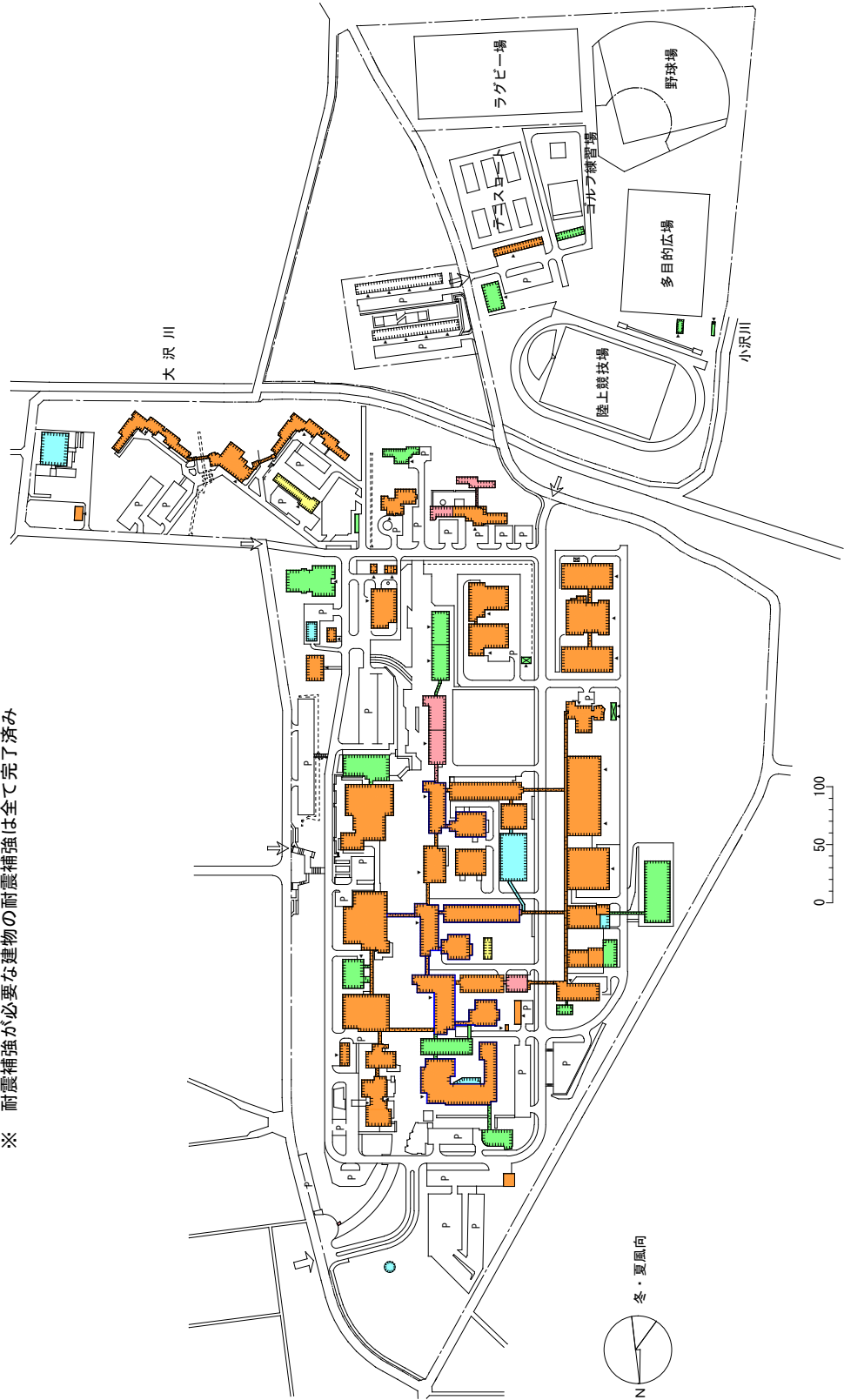
# キャンパス整備状況

2023年度 現在

区分	経過年数	建築年	延べ面積 (㎡) ①	うち全面改修済みの建物面積 (㎡) ②
■	35年～	1977～1988	82,557	33,436
■	30～34年	1989～1993	6,969	0
■	20～29年	1994～2003	15,029	0
■	10～19年	2004～2013	1,012	0
■	0～9年	2014以降	6,251	0
	計		111,818	33,436

※ 青団みの建物は大規模改修歴（全面改修）のある建物

※ 耐震補強が必要な建物の耐震補強は全て完了済み



敷地面積	建築面積	延べ面積	建ぺい率	容積率	学部等名	学生数	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名
377,484㎡	43,740㎡	111,818㎡	11.6	29.6%	工学部	2,003	001	上富岡町	長岡市上富岡町1603-1	0432	長岡技術科学大学

構内駐車場収容台数内訳 (リネットハウス、クラブハウスは含めず)

整理番号	名称	収容台数	身障者用	整理番号	名称	収容台数	身障者用
1	P中央	10	0	29	P生物	52	8
2	P事務局	33	16	30	物理・材料 総合情報センター	30	5
3	P体育館下	73	3	31	情報システム棟 駐車場	5	1
4	P中央	97	1	32	技術開発センター	8	5
5	P地域防災連携センター	16	1	33	分計課センター	5	5
6	P地域防災連携センター	28	1	34	総務センター	15	6
7	P講義棟北1	26	1	35	3.0周年記念学生宿舎	22	1
8	P講義棟北2	40	8	36	P学宿2	27	1
9	P講義棟北3	111	23	37	P学宿3	48	5
10	P講義棟北4	52	24	38	国際学生宿舎	19	5
11	P講義棟西1	48	25	39	国際交流会館	46	4
12	P講義棟西2	42	26				
13	P電気	40	2				
14	P電気	29	2				
				合計		1,124	9

凡例

- 駐車場
- 整理番号 4
- 身 (1)
- 「」 駐車場名称
- 「( )」 収容台数
- 「( )」 身障者用収容台数

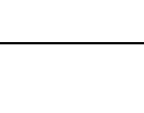
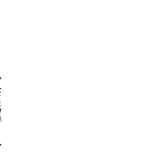
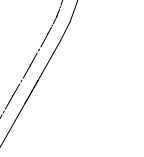
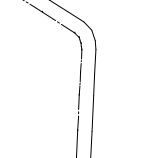
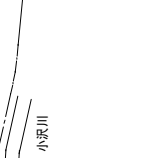
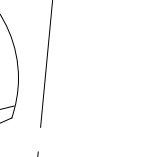
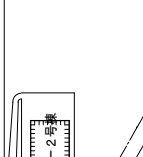
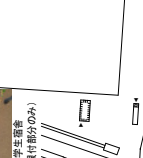
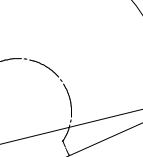
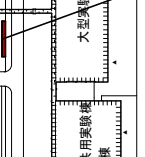
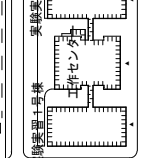
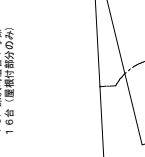
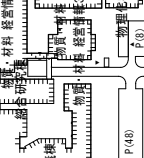
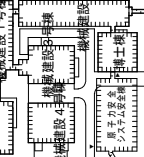
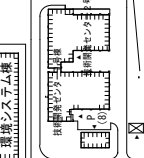
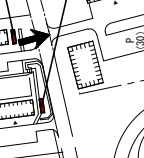
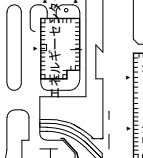
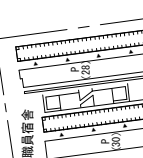
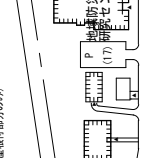
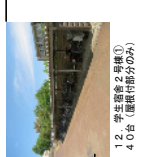
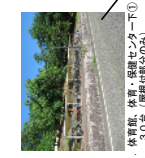




構内駐輪場収容台数内訳

整理番号	名称	サイズ	収容台数	名称	サイズ	収容台数
1	体育館・体育・保健センター下①	1,800(30×55)所	30	学生宿舎2号棟②	474(27×17)所	8
2	体育館・体育・保健センター一臨①	1,088(27×45)所	20	学生宿舎2号棟③	1,624(27×17)所	28
3	体育館・体育・保健センター一臨②	1,088(27×45)所	20	深沢町宿舎1号棟	974(23×44)所	16
4	体育館・体育・保健センター一臨③	1,088(27×45)所	20	深沢町宿舎2号棟	974(23×44)所	16
5	体育館・体育・保健センター一臨④	1,088(27×45)所	20	国際学生宿舎	818(27×31)所	15
6	体育館・体育・保健センター下②	1,800(30×55)所	30	国際交流会館	1,140(28×54)所	20
7	30周年記念学生宿舎①	472(47×17)所	8	機械建設2号棟	2,310(23×10)所	40
8	30周年記念学生宿舎②	944(47×17)所	16	電氣2号棟	2,310(23×10)所	40
9	学生宿舎1号棟①	2,320(22×10)所	40	講義棟①	1,610(20×51)所	28
10	学生宿舎1号棟②	1,185(23×55)所	20	講義棟②	800(20×53)所	12
11	学生宿舎1号棟③	1,624(22×17)所	28	講義棟③	3,344(22×17)所	68
12	学生宿舎2号棟①	2,320(22×10)所	40	リネックス	2,450(22×42)所	40
合計						623

構内駐輪場収容台数内訳 (注) 1台60cmとして算出



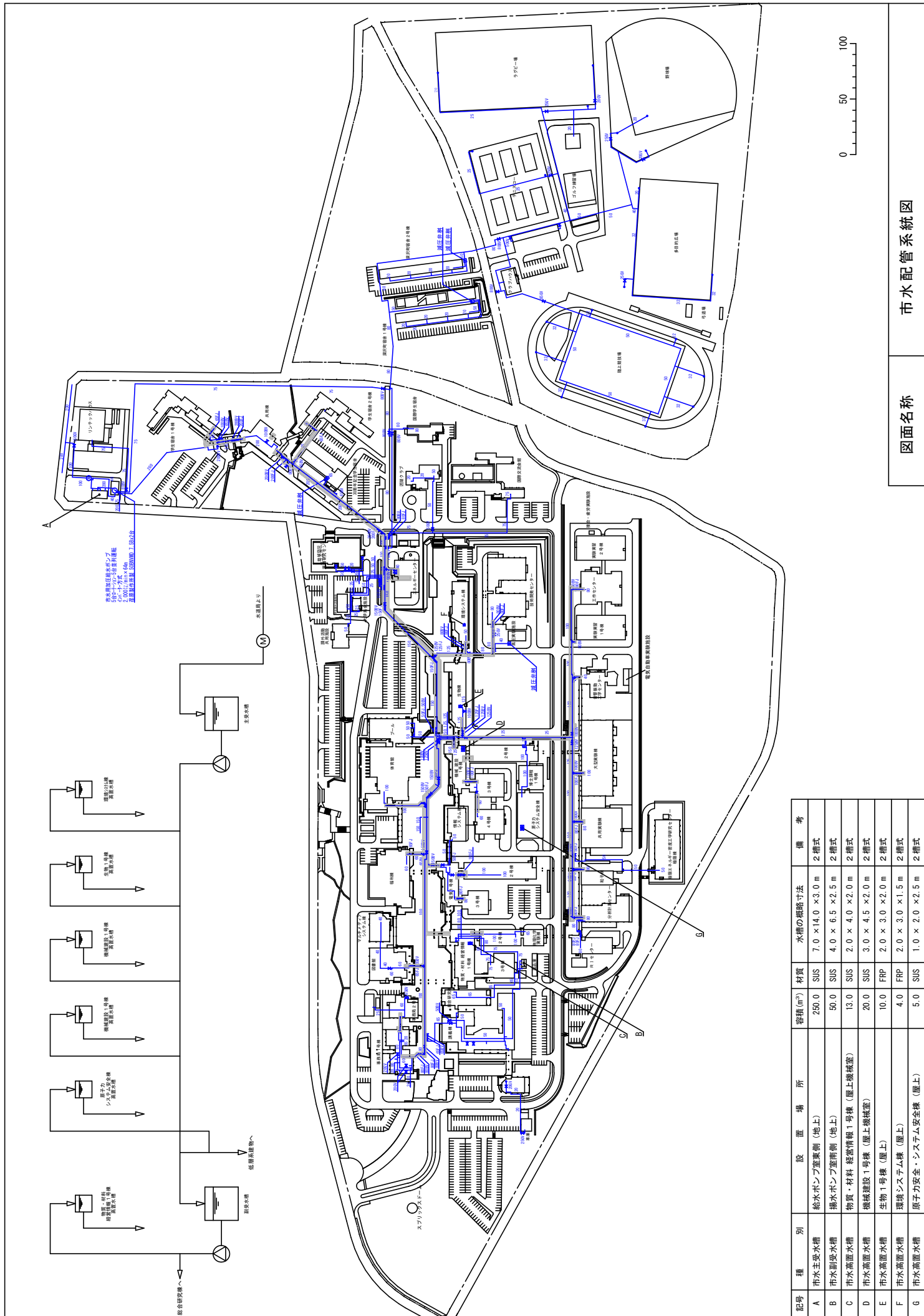
No	建物名称	No	建物名称	No	建物名称
1	事務局1号棟	41	大型実験棟	41	弓道場
2	事務局2号棟	42	物理化学実験棟	42	多目的グラウンド
3	図書館	43	電気1号棟	43	野球場
4	マルチメディアシステム棟	44	電気2号棟	44	ラグビー場
5	福利棟	45	電気3号棟	45	テニスコート
6	体育・保健センター、体育館	46	情報システム棟	46	実験実習1号棟
7	プール	47	原子力安全・システム安全棟	47	実験実習2号棟
8	課外活動共用施設	48	博士課程研究実験棟	48	高圧実験施設
9	課外活動共用施設2号館	49	機械建設1号棟	49	電気系実験室棟I
10	大学集会施設	50	機械建設2号棟	50	電気系実験室棟II
11	地域防災実践研究センター	51	機械建設3号棟	51	匠技クラブ
12	エネルギーセンター	52	機械建設4号棟	52	国際交流会館
13	クラブハウス	53	生物棟	53	国際学生宿舎
14	新講義棟	54	環遊システム棟	54	学生宿舎1号棟
15	講義棟	55	技術開発センター1号棟	55	学生宿舎共用棟
16	総合研究棟	56	技術開発センター2号棟	56	学生宿舎2号棟
17	薬品庫	57	RIセンター	57	30周年記念学生宿舎
18	物質・材料経営情報1号棟	58	分析計測センター	58	深沢町宿舎1号棟
19	物質・材料経営情報2号棟	59	翻エネルギー理工学センター(東7棟)	59	深沢町宿舎2号棟
20	物質・材料経営情報3号棟	60	翻エネルギー理工学センター(西8棟)	60	陸上競技場

ガスガス中圧ガスを低圧ガスに  
変換供給するための中圧ガス供給  
設備用ボイラーのみ中圧ガス供給  
設備およびメーター管理は北陸ガス  
建物およびメーター



ガス配管系統図 S=1/4, 500

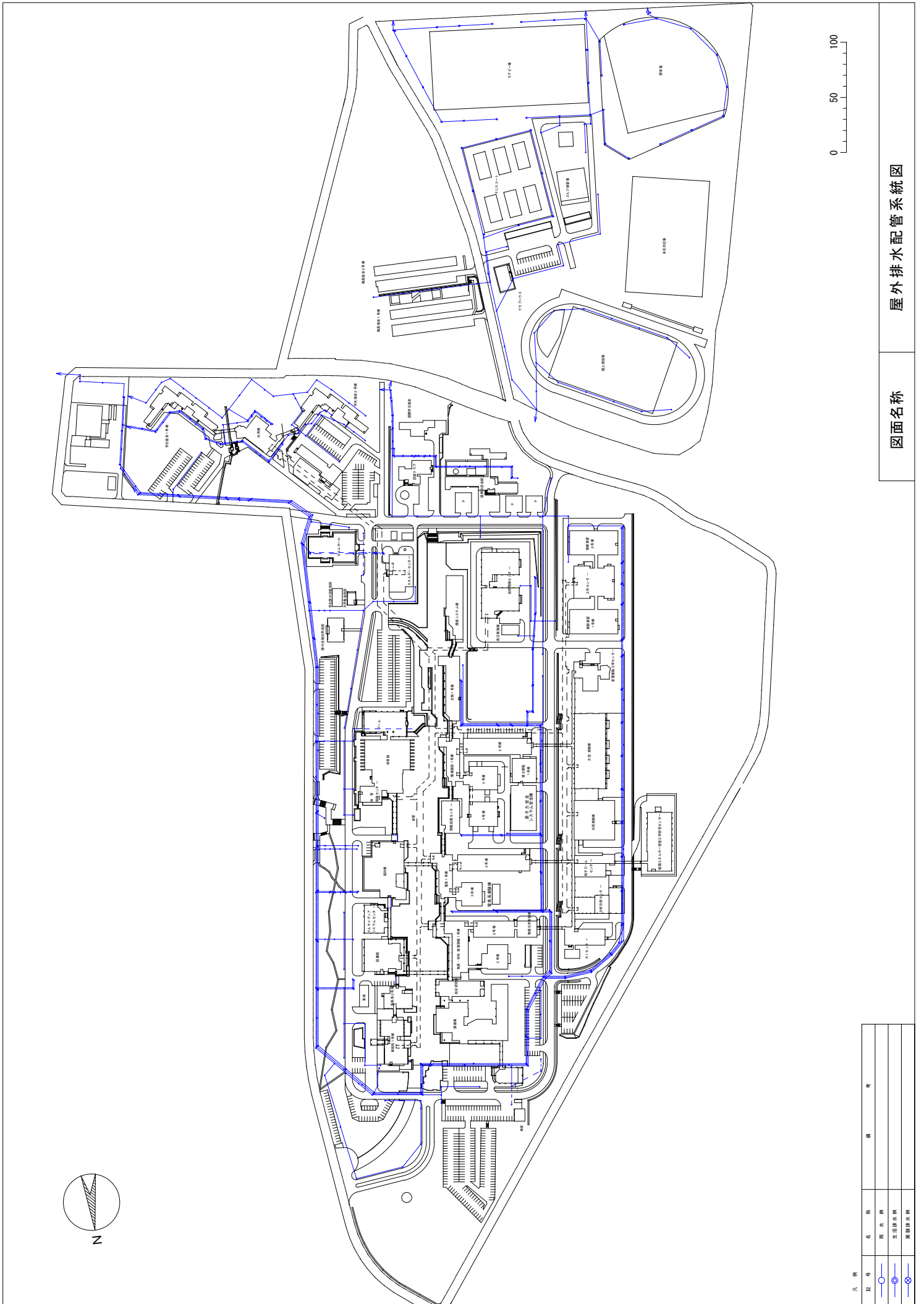
図面名称 ガス配管系統図



図面名称 市水配管系統図

記号	種別	設置場所	容積 (m <sup>3</sup> )	材質	水槽の幅寸法	備考
A	市水主要水槽	給水ポンプ室裏側 (地上)	250.0	SUS	7.0 × 14.0 × 3.0 m	2槽式
B	市水副受水槽	給水ポンプ室前側 (地上)	50.0	SUS	4.0 × 6.5 × 2.5 m	2槽式
C	市水高置水槽	物質・材料 経営情報1号棟 (屋上機械室)	13.0	SUS	2.0 × 4.0 × 2.0 m	2槽式
D	市水高置水槽	機械建設1号棟 (屋上機械室)	20.0	SUS	3.0 × 4.5 × 2.0 m	2槽式
E	市水高置水槽	生物1号棟 (屋上)	10.0	FRP	2.0 × 3.0 × 2.0 m	2槽式
F	市水高置水槽	環状システム棟 (屋上)	4.0	FRP	2.0 × 3.0 × 1.5 m	2槽式
G	市水高置水槽	原子力安全・システム安全棟 (屋上)	5.0	SUS	1.0 × 2.0 × 2.5 m	2槽式

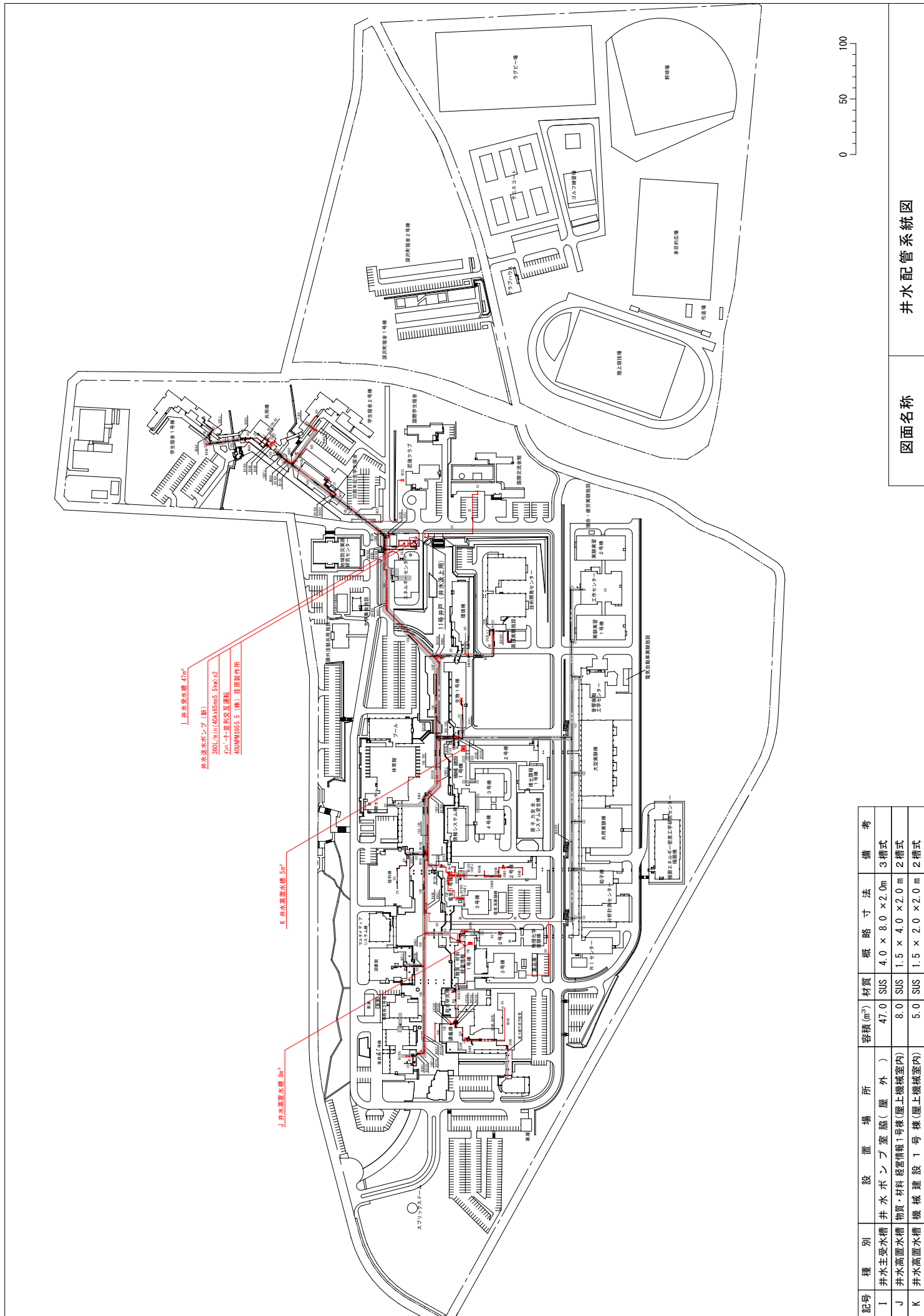




屋外排水配管系統図

図面名称

凡例	名称	備考
	排水配管	
	生活排水	
	雨水排水	
	雑排水	



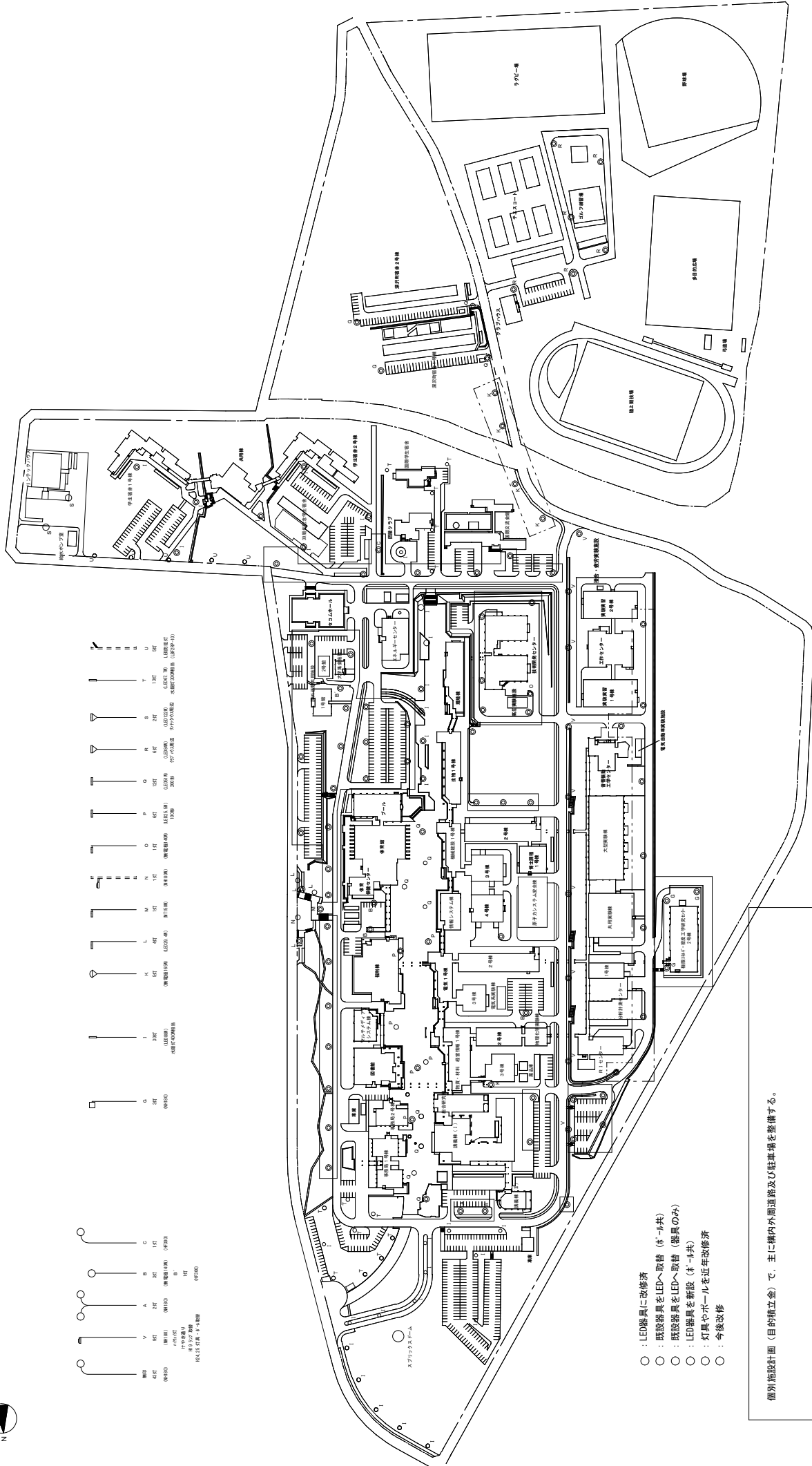
図面名称 井水配管系統図

記号	種別	設置場所	容量(m³)	材質	概略寸法	備考
I	井水主受水槽	井水ポンプ室(屋外)	47.0	SUS	4.0 × 8.0 × 2.0m	3槽式
J	井水高置水槽	物質・材料検査情報1号棟(屋内機械室内)	8.0	SUS	1.5 × 4.0 × 2.0 m	2槽式
K	井水高置水槽	機械建設1号棟(屋内機械室内)	5.0	SUS	1.5 × 2.0 × 2.0 m	2槽式



- : LED器具に改修済
- : 既設器具をLEDへ取替 (ホ-ル共)
- : 既設器具をLEDへ取替 (器具のみ)
- : LED器具を新設 (ホ-ル共)
- : 灯具やポールを近年改修済
- : 今後改修

- : LED器具に改修済
- : 既設器具をLEDへ取替 (ホ-ル共)
- : 既設器具をLEDへ取替 (器具のみ)
- : LED器具を新設 (ホ-ル共)
- : 灯具やポールを近年改修済
- : 今後改修



個別施設計画 (目的別立金) で、主に構内外周道路及び駐車場を整備する。

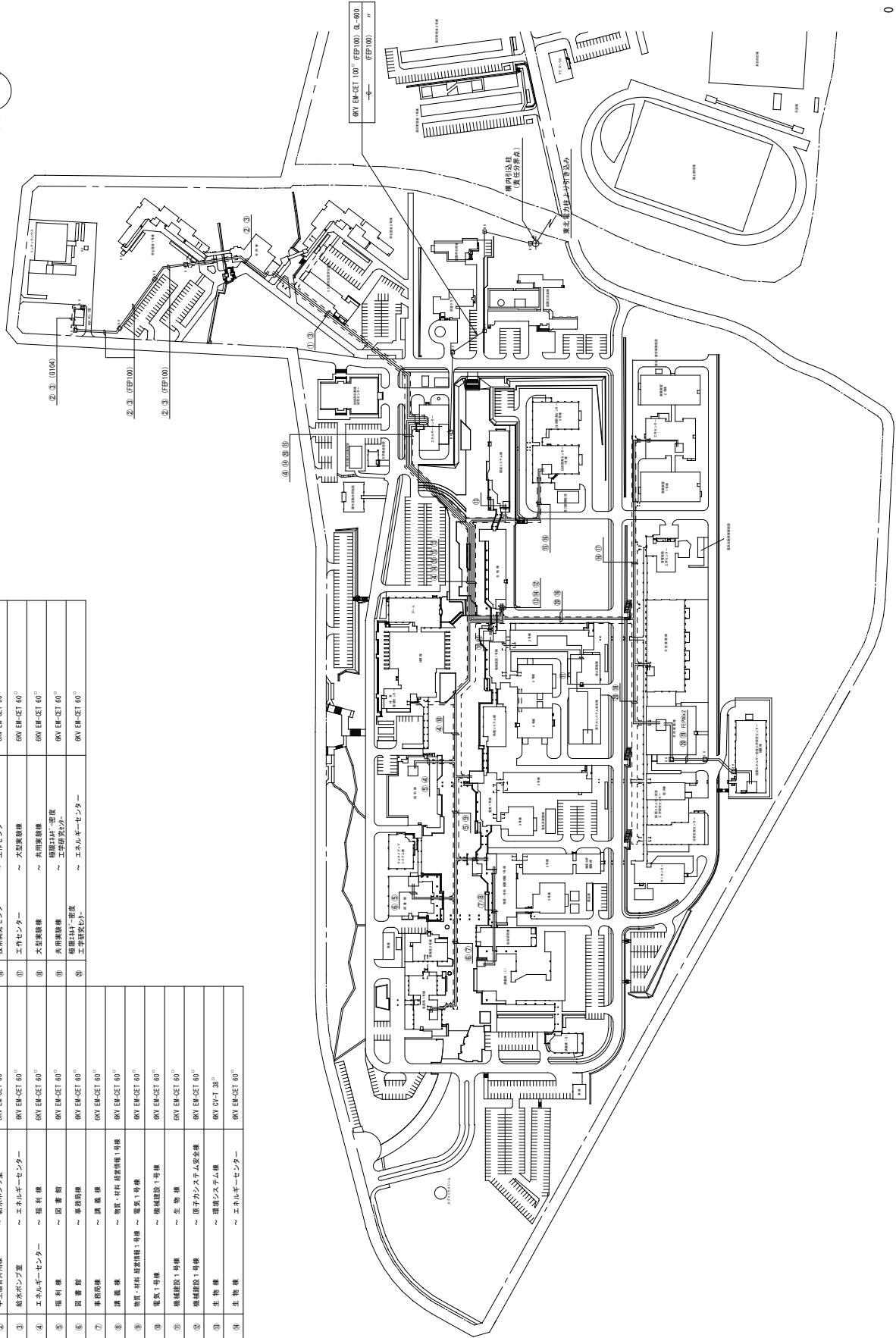
主にハイウェイ灯へ更新  
 道路照明施設設置基準による歩道等の路面平均照度 3lx以上を考慮し、必要箇所は増設する。

Ⅰ期：さくら通り北側 (事務局棟周辺から福利棟周辺)、講義棟駐車場、R3年度施工済み  
 Ⅱ期：さくら通り南側 (保健センター周辺から課外活動周辺)、プール駐車場、東側駐車場、R3年度施工済み  
 Ⅲ期：いちよう通り、技術開発センター周辺  
 Ⅳ期：構内各駐車場、極限エネルギー2号棟周辺  
 Ⅴ期：低階棟周辺、深沢町番舎までの歩道

図面名称

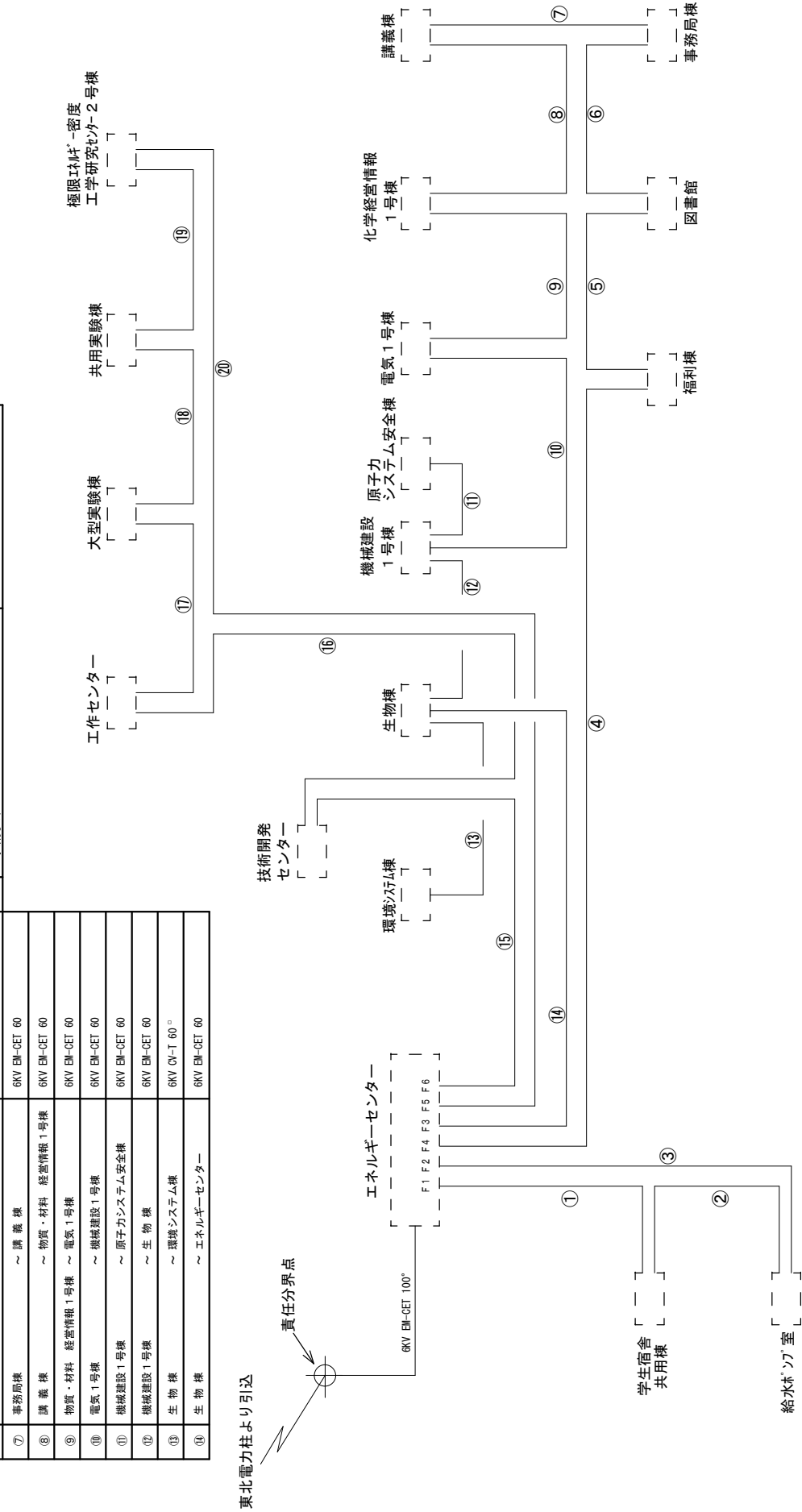
外灯配線図

業務用電力		高圧電力B	
番号	行先	番号	行先
①	エネルギーセンター ～ 学生図書共用棟	①	エネルギーセンター ～ 技術開発センター
②	学生図書共用棟 ～ 給水ポンプ室	②	技術開発センター ～ 工作センター
③	給水ポンプ室 ～ エネルギーセンター	③	工作センター ～ 大型実験棟
④	エネルギーセンター ～ 環利棟	④	大型実験棟 ～ 共用実験棟
⑤	環利棟 ～ 図書館	⑤	共用実験棟 ～ 環利棟・1号棟
⑥	図書館 ～ 事務総務棟	⑥	環利棟・1号棟 ～ エネルギーセンター
⑦	事務総務棟 ～ 講義棟	⑦	エネルギーセンター
⑧	講義棟 ～ 物質・材料 実験棟1号棟		
⑨	物質・材料 実験棟1号棟 ～ 電気1号棟		
⑩	電気1号棟 ～ 機械建設1号棟		
⑪	機械建設1号棟 ～ 生物棟		
⑫	機械建設1号棟 ～ 原子カシムシステム実験棟		
⑬	生物棟 ～ 環利棟・1号棟		
⑭	生物棟 ～ エネルギーセンター		
⑮			



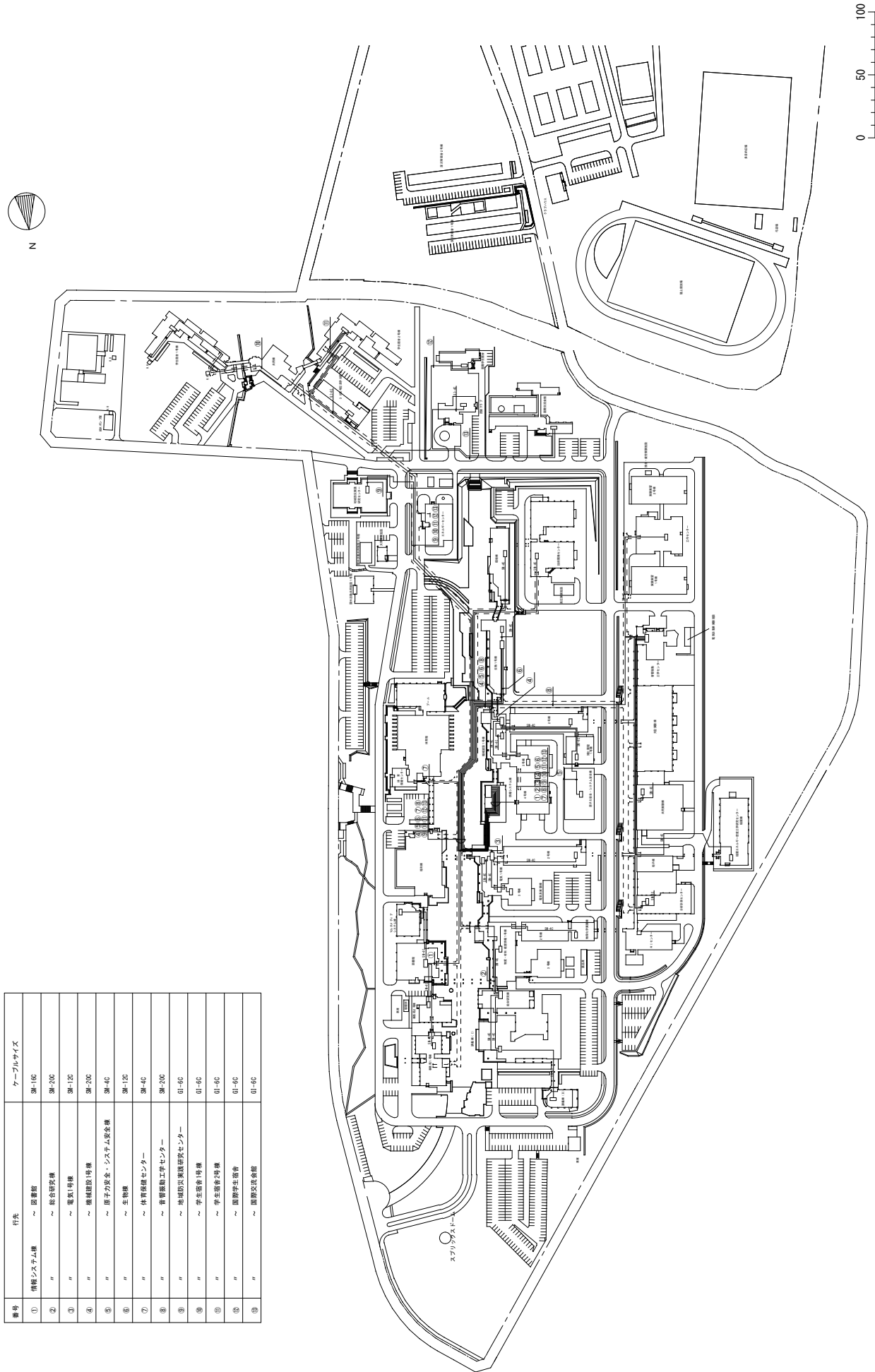


業務用電力		高圧電力A	
番号	行先	番号	行先
①	エネルギーセンター ～ 学生宿舎共用棟	⑮	エネルギーセンター ～ 技術開発センター
②	学生宿舎共用棟 ～ 給水ポンプ室	⑯	技術開発センター ～ 工作センター
③	給水ポンプ室 ～ エネルギーセンター	⑰	工作センター ～ 大型実験棟
④	エネルギーセンター ～ 福利棟	⑱	大型実験棟 ～ 共用実験棟
⑤	福利棟 ～ 図書館	⑳	共用実験棟 ～ 極限エネルギー密度 工学研究センター
⑥	図書館 ～ 事務局棟		
⑦	事務局棟 ～ 講義棟		
⑧	講義棟 ～ 物質・材料 経営情報1号棟		
⑨	物質・材料 経営情報1号棟 ～ 電気1号棟		
⑩	電気1号棟 ～ 機械建設1号棟		
⑪	機械建設1号棟 ～ 原子カシシステム安全棟		
⑫	機械建設1号棟 ～ 生物棟		
⑬	生物棟 ～ 環境システム棟		
⑭	生物棟 ～ エネルギーセンター		

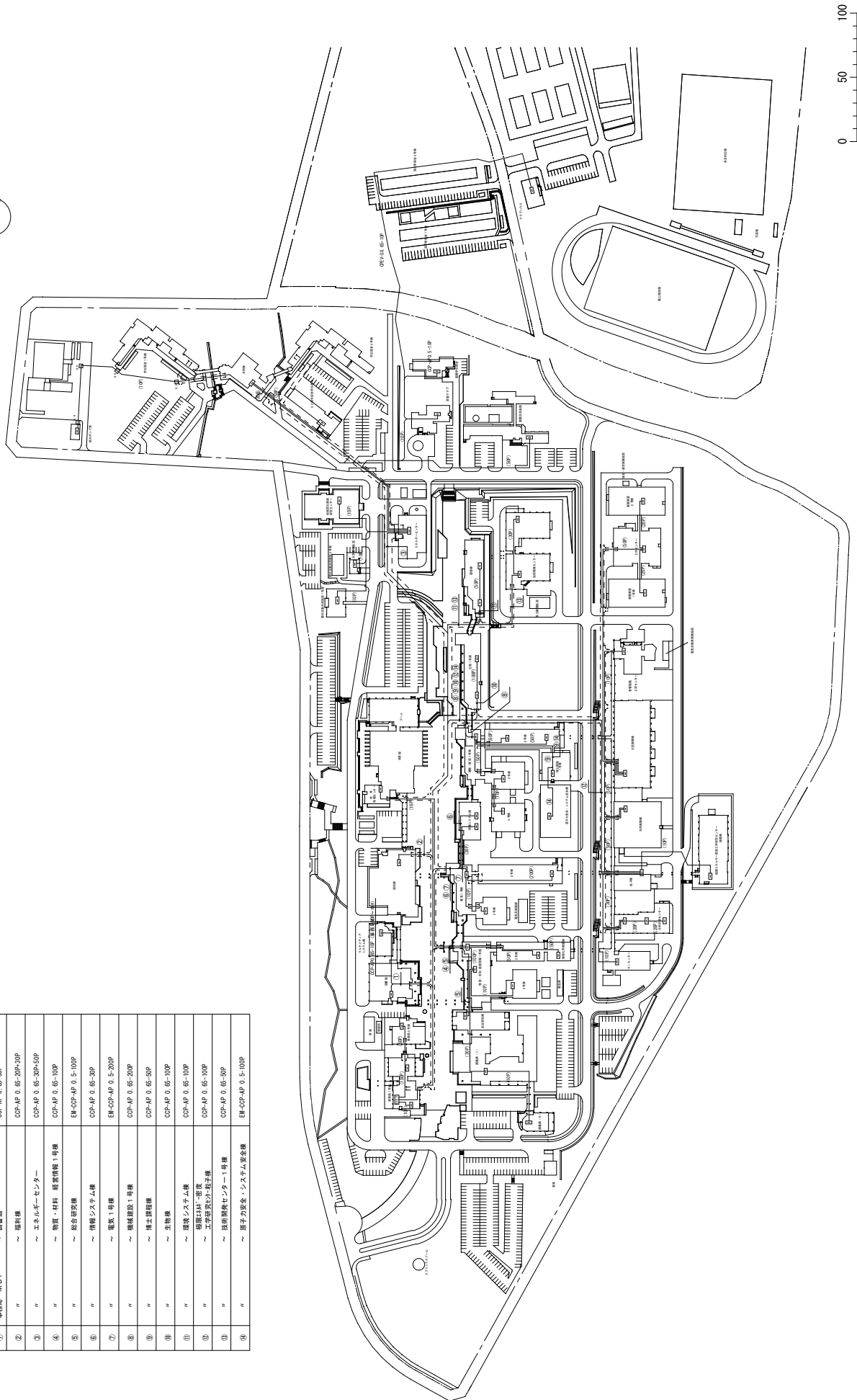


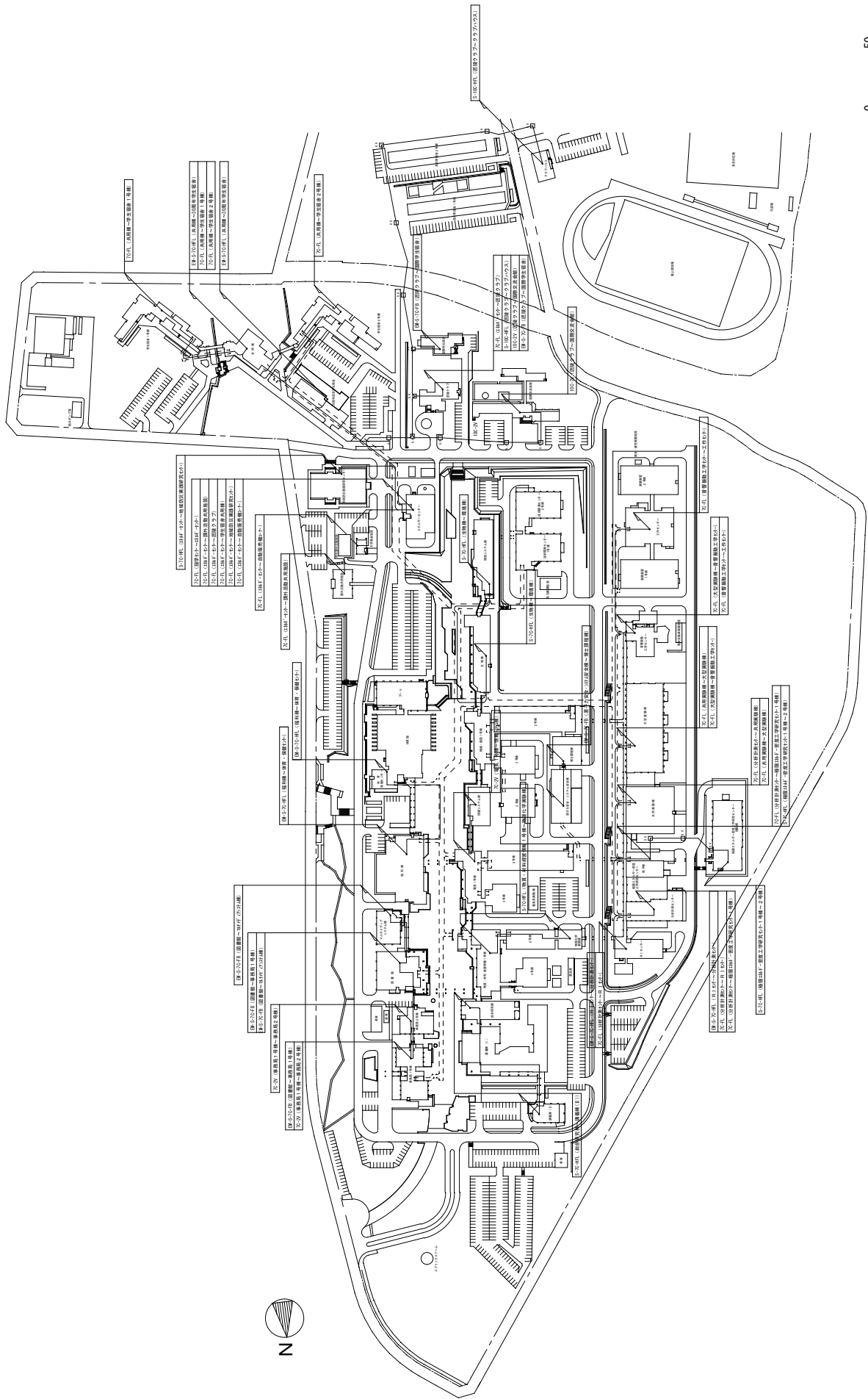
図面名称 高圧ケーブル系統図

番号	行先	ケーブルサイズ
①	情報システム棟	SR-160
②	～ 図書部	SR-200
③	～ 総合研究棟	SR-120
④	～ 電気1号棟	SR-200
⑤	～ 電気2号棟	SR-40
⑥	～ 電子力安全・システム安全棟	SR-120
⑦	～ 生物棟	SR-40
⑧	～ 体育保健センター	SR-200
⑨	～ 情報機動工学センター	GI-60
⑩	～ 地域防災実践研修センター	GI-60
⑪	～ 学生自治会1号棟	GI-60
⑫	～ 学生自治会2号棟	GI-60
⑬	～ 国際学生宿舎	GI-60
⑭	～ 国際交流会館	GI-60



番号	行先	ケーブルサイズ
①	事務局 MDF	OSP-AP 0.65-30P
②	～ 図書部	OSP-AP 0.65-20P-30P
③	～ 理科棟	OSP-AP 0.65-20P-50P
④	～ エネルギーセンター	OSP-AP 0.65-30P-50P
⑤	～ 物質・材料 経営情報 1 号棟	OSP-AP 0.65-100P
⑥	～ 総合研究棟	EH-OSP-AP 0.5-100P
⑦	～ 情報システム棟	OSP-AP 0.65-30P
⑧	～ 電気 1 号棟	EH-OSP-AP 0.5-200P
⑨	～ 機械建設 1 号棟	OSP-AP 0.65-200P
⑩	～ 博士課程棟	OSP-AP 0.65-50P
⑪	～ 生物棟	OSP-AP 0.65-100P
⑫	～ 環境システム棟	OSP-AP 0.65-100P
⑬	～ 環境 11 号・環境 工学研究センター-電子棟	OSP-AP 0.65-100P
⑭	～ 技術開発センター 1 号棟	OSP-AP 0.65-50P
⑮	～ 原子力安全・システム安全棟	EH-OSP-AP 0.5-100P





図面名称 テレビ共聴設備配線図



① 防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ

② 防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ

③ 防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ

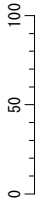
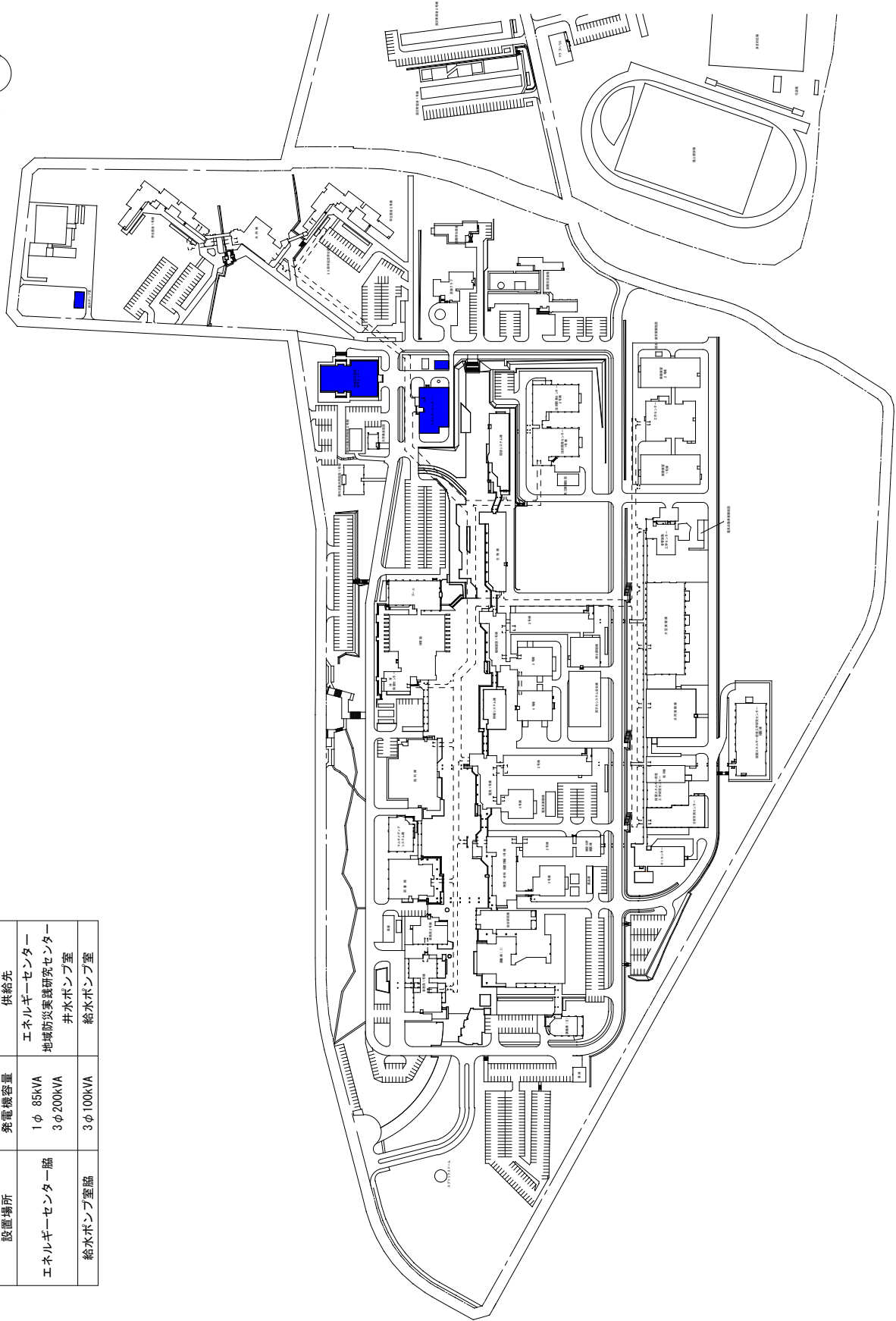
④ 防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ  
防犯カメラ

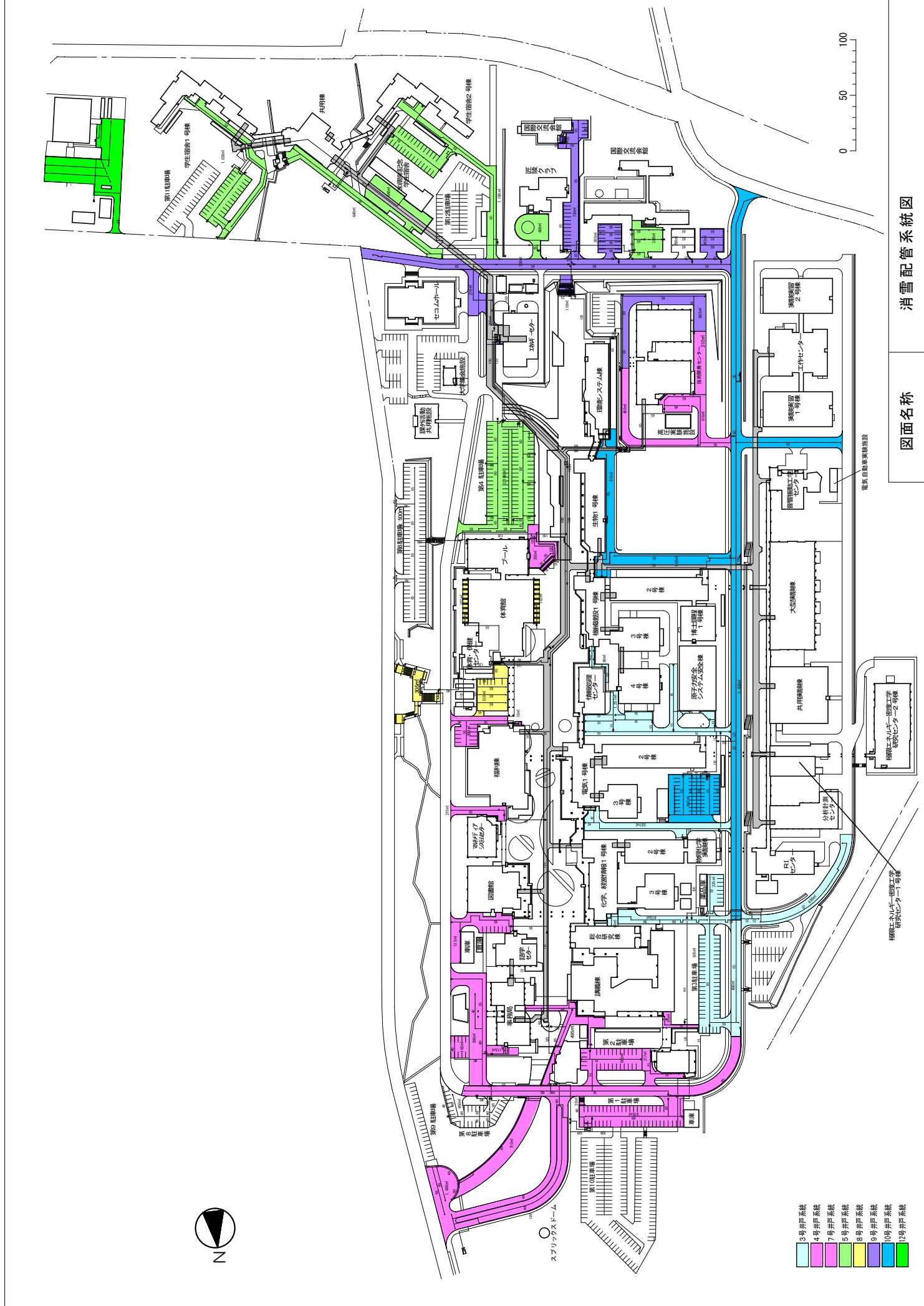


図面名称 防災設備配線図

**整備済み**

設置場所	発電機容量	供給先
エネルギーセンター エネルギーセンター脇	1φ 85kVA 3φ 200kVA	エネルギーセンター 地域防災実践研究センター
給水ポンプ室脇	3φ 100kVA	井水ポンプ室 給水ポンプ室





消雪配管系統図

図面名称

- 9号井戸系統
- 4号井戸系統
- 7号井戸系統
- 5号井戸系統
- 8号井戸系統
- 9号井戸系統
- 10号井戸系統
- 12号井戸系統

発行 令和5年3月  
改訂 令和5年11月

